

BX

BX GROUP

BXグループ
CSR報告書
2016



BXグループの概要



BXは、当社グループが常に未知への挑戦を続け、進化していく姿を示すシンボルです。

Bは文化シャッター全グループを、Xは未知数・無制限・掛け合わせる力を意味する「進化」を表しています。「BXグループ」は今日まで培ってきた技術・製品を基盤とし、さらに創造力や技術力、人間力を掛け合わせ未来に向かって進化し続けます。また、スカイブルーは、当社グループがめざす「快適環境のソリューショングループ」として、地球環境の美しさを象徴する青空の広がりをイメージしたものです。

快適環境のソリューショングループ

シャッター関連製品事業

軽量シャッター、重量シャッター、オーバースライディングドア、窓シャッター、電動開閉機などの製造、販売、施工を行っています。



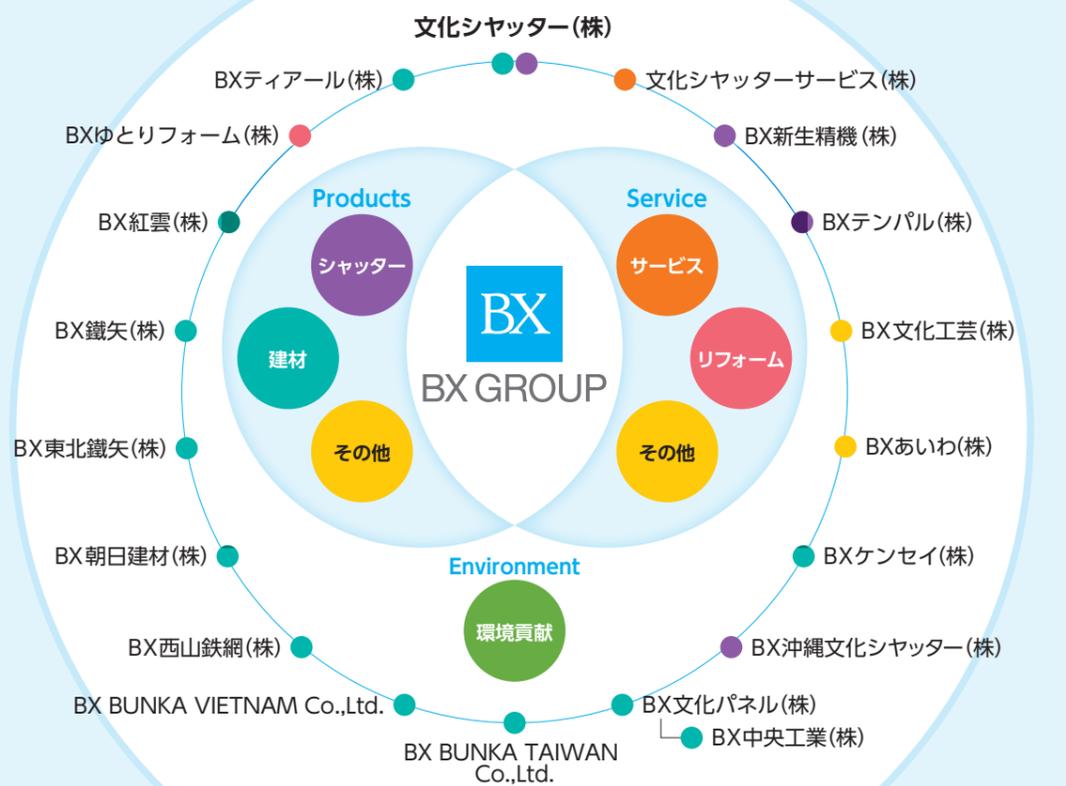
サービス事業

全国127ヶ所のサービスステーションで各種シャッター、金属製ドアなどの修理・点検業務などを行っています。



リフォーム事業

首都圏を中心に24店舗を展開し、スピード、提案力、施工力を活かしたリフォーム事業を行っています。



関連会社 文化シャッター秋田販売(株) 文化シャッター高岡販売(株) (株)エコウッド 不二サッシ(株)
Eurowindow joint Stock Company



建材関連製品事業

住空間、店舗、ビルなどの建築物におけるエクステリア建材、ドア、パーティションなどの製造、販売、施工を行っています。

環境貢献事業

リサイクル素材の木材・プラスチック再生複合材エクステリアや太陽光発電システムなど、環境に配慮した製品やサービスを提供しています。



WEB グループ会社：企業情報▶グループ会社

編集方針

本報告書は、ステークホルダーのみなさまにBXグループのCSRについてご理解いただくために、作成しています。

経年の編集方針

- BXグループのCSR憲章をもとにした章立てで構成します。
- BXグループのCSRの取り組みについて、ステークホルダーのみなさまにわかりやすくご報告することに努めます。
- BXグループの取り組みが、社会そしてステークホルダーのみなさまにどう評価されているかを受け止めるため、できるだけみなさまからのご意見をいただくように努めます。
- 取り組み内容をわかりやすくするために、個々の取り組みについて、担当者からの声を掲載します。
- 従業員数にはパート・嘱託は含まれません。

2016年度版の編集ポイント

- (1)代表取締役社長の交代にともない、BXグループが継承すべき伝統と文化について新会長、新社長の対談を実施し、掲載しました。
- (2)2016年度より、新中期経営計画がスタートしました。10年間の長期経営計画の集大成となる第3次中期経営計画(2013年-2015年)の成果と、新中期経営計画の概要をわかりやすくまとめました。
- (3)BXグループが推進する“ことづくり”を通じて、社会と共に持続的に成長することをめざす当社グループの取り組みを、「事業プロセスにおける社会・環境への配慮」「製品・サービスを通じた社会課題の解決」の側面から掲載しています。
- (4)社会的要請の高さと、BXグループが注力する事業活動の視点にもとづき、具体的な取り組みについて特集にまとめました。
- (5)CSRマネジメント報告では、CSR憲章をもとに、従業員を含めたステークホルダーの声を交えながら、活動のPDCA(目標→実績→成果→課題)が“見える・伝わる”編集としています。

情報提供について

WEBマークがある項目は、詳細・関連情報をホームページでご覧いただけます。

報告対象期間

2015年度(2015年4月1日~2016年3月31日)を報告対象期間としています(ただし、一部2016年度の報告も含んでいます)。組織・役職は2016年4月現在のものです。

報告対象組織

BXグループ全体を対象としています。文化シャッターのみ、あるいは特定の会社に限られる場合は、本文中にその旨を明記しています。

次回発行予定

2017年8月予定

目次

BXグループの概要	1
トップメッセージ	3
BXグループのCSR	7
BXグループの社会課題解決へのアプローチ	11

特集	自治体や企業のBCPを支援する「止水事業」	17
	浸水対策ソリューション	
特集	ステークホルダーダイアログ	19
	産官民で顔の見える関係づくりを	

CSRマネジメント報告	21
成長と共に	23

お客様の満足を追求
グループの成長・発展
誠実な企業経営

社会と共に	25
-------	----

企業市民としての社会貢献
人道的社会貢献
文化活動の支援
BXグループのエリア活動

地球と共に	29
-------	----

環境負荷を軽減した企業経営
環境配慮技術・商品開発
自主的な環境保全活動
環境負荷の全体像

働く仲間と共に	33
---------	----

人権の尊重
雇用の創出
満足度の向上

コーポレート・ガバナンス	35
--------------	----

第三者意見/第三者意見をいただいて	37
会社概要	38

ホームページのご案内

BXグループの取り組みについて、より詳しい情報をホームページ上で公開しています。

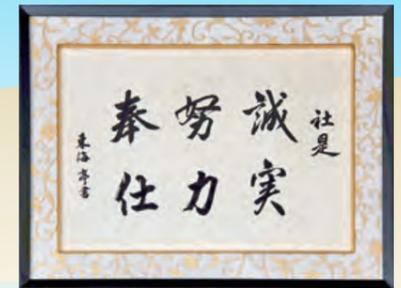
WEB <http://www.bunka-s.co.jp/csr/>



トップメッセージ

未来へ継承すべきもの、それはBXグループのスピリット

2015年に創業60周年を迎えたBXグループ。2016年は次の60年に向けた最初の年であり、2020年度を最終年度とする新中期経営計画始動の年でもあります。この節目にあたり、BXグループが今後さらに成長していくために大切にすべきスピリットについて、茂木会長と潮崎社長が語ります。



活動にしても多くの従業員が自主的に参加しています。素晴らしい日本の国民性の現れのように思えます。こうしたことを継続するために何が必要か。CSV (created shared value: 共有価値の創造) という言葉がありますが、V (価値) の考え方を随所に取り入れることが、長く続ける秘訣になると考えています。

—— 未来に継承すべきBXスピリットとは何でしょうか。

潮崎 それは社是「誠実・努力・奉仕」であり、そこに込められた「革新と挑戦」の精神でもあります。私が新人の頃、社是は木に例えると「根」であり、根が腐れば木も枯れてしまうと教えられました。今の時代、企業グループにとって「一体感」が最も大切だと考えています。社是の精神をもとに先人たちが築き上げてきた歴史、風土、文化を、従業員一人ひとりが大切に思い合うことが一体感の「根」であろうと。

一体感を醸成するためにも、グループ全18社約5千人の従業員と当社と関わりのある全ての人が幸福でなければいけません。これらステークホルダーの方々の最大幸福を実現することが、私の最大のミッションであると考えています。

文化シャッター株式会社
代表取締役社長
潮崎 敏彦



文化シャッターの歴史は、新しい価値創造の歴史

—— 文化シャッターが誕生した経緯と社名の由来を教えてください。

茂木 文化シャッターは二人の兄弟によって誕生しました。東の創業者は兄の関本亘(もとむ)、西の創業者は弟の東海亭(たかし)です。姫路で建築金物類を扱う金物店を営んでいた弟東海から、自分の店舗に軽量シャッターを取り付けたと聞いた兄の関本は、早速姫路までそれを見に駆けつけました。旧来の板戸に不可欠の戸袋が要らないように、防犯、防風も完璧で、防火にもなる。これは絶対に将来性があるとシャッターの製造を決意したと聞いています。

潮崎 当時の日本は高度経済成長期で、人々のライフスタイルが大きく変わり、「テレビ」「冷蔵庫」「洗濯機」の「三

種の神器”が驚異的に普及した時代でした。中でもニューファミリーの象徴ともいえる「文化住宅」や「文化包丁」「文化鍋」など、当社の社名に冠した「文化」は時代の最先端、最新技術の代名詞だったのです。

また、当時の社長が列車の窓から外を眺めていたところ、まだ未開拓の地が多かったことから、自らが開拓者として「cultivate (耕す)」することを決意し、この言葉を語源とする「culture (文化)」を社名にしたという逸話も残っています。

—— “技術の文化”とうたわれる、その源泉は何でしょうか。

茂木 文化シャッターは昨年創業60周年を迎えました。その歴史はまさに時代、時代における「新しい価値創造」の歴史といえます。創業当初から、常識にとらわれずに「今までになかった便利」を生み出すことに果敢にチャレンジした先人たちの精神が“技術の文化”と市場から評価されるルーツなのだと思います。社是に「誠実・努力・奉仕」とありますが、創造的な目標を掲げ、新しい「もの」や「こと」への挑戦を意味する「努力」が、BXグループの伝統となっているのです。

しかし一方で、「技術」とは商品に関わる分野だけではありません。営業や業務、設計、工務、工事、メンテナンスといった、お客様につながるすべての分野に“技術の文化”は根付いているのです。従業員一人ひとりのたゆまぬ努力によって、イノベーションを起こしていくこともまた、技術なのです。

潮崎 現在、当社グループは“技術の文化”を土台に、「快適環境のソリューショングループ」のさらなる進化をめざしています。この快適環境とは、人々が「安心」「安全」に暮らせることが大前提です。

例えば、1970年代には、デパート火災を契機に防火性

だけでなく遮煙性にも優れた防火・防煙シャッターを開発。そしてお客様に私たちの提供した商品を末永くご使用いただけるよう、24時間365日対応するアフターサービス体制を構築しました。その後も時代のニーズを受け、防犯性能の高い製品を拡充し、一定の防犯性能を評価した「防犯性能の高い建物部品目録」には、当社グループの製品が多数登録されています。

さらに、省エネ効果の高い製品の開発や、製造過程での省力化など、地球温暖化防止の取り組みを進める一方、止水事業など環境の変化に適応するためのソリューション提供に注力しています。当社グループが培ってきた技術力で、社会的役割をしっかりと果たしていく。その積み重ねがこの先の当社グループの歴史を形作っていくものと信じています。

社是とそこに込められた精神を大切に、一体感のあるグループにしていきたい

—— BXグループが今後注力すべきCSRの取り組みは何でしょうか。

茂木 「快適環境のソリューショングループ」として常に進化し続けることですね。絶えず変化する社会課題を解決するための取り組みを追求すること。それらの取り組みを継続していくことで、やがてはCSRの観点からもBXグループらしいと言われるようになっていくと思っています。

潮崎 CSRで最も重要なのは法令遵守です。グループ従業員一人ひとりがしっかりと遂行しなければいけません。次に社会、地域への貢献です。東日本大震災以降、また、今年4月の熊本地震でも見受けられましたが、ボランティア活動が盛んになりました。当社グループの富士山清掃



文化シャッター株式会社
代表取締役会長
茂木 哲哉

トップメッセージ Q&A



文化シャッター株式会社
代表取締役社長

潮崎 敏彦

次の60年を見据えて ～新中期経営計画の概要とポイント

Q. 2015年は長期経営計画と第3次中期経営計画の最終年度でした。振り返ってみて、成果はいかがでしたか。

A. 二つのコンセプトが事業の根幹に息づく

文化シャッターの歴史は、その時代の社会課題に向き合い、価値創造への挑戦の積み重ねでした。創業当初からお客様目線に立ったものづくりの精神を貫いたからこそ、今のBXグループがあります。

お客様から末永くご愛顧いただくために、10年間の「長期経営計画(2005～2015)」の骨子として、「お客様に『安心』『安全』を提供できる『快適環境のソリューショングループ』をめざす」を長期ビジョンとして掲げました。

お客様の生活全般を把握することで本当に必要とされる製品やサービスを提供する「ライフ・イン」と、末永く「安心」「安全」にご使用いただくことで、お客様との信頼関係を築いていく「ライフロング・パートナーシップ」。この二つのコンセプトが事業の根幹に息づいていることが、この10年の成果であり、今後も継承すべき当社グループ不変のDNAとなりました。

長期ビジョン達成を目指した“革新”の3年

「第3次中期経営計画(2013～2015)」は、創業以来のものづくりの精神を進化させ、お客様の生活に深く入り込み、感動していただけるような高付加価値を創造・追求す

る“ことづくり”を推進することで、長期ビジョンの達成をめざしました。

例えば、業界初となる耐震性に優れた高齢者住宅向けの引き戸や、HEMSとの連携によりスマートフォンでの遠隔操作が可能な住宅用窓シャッターの開発等、数々の新製品をリリースするなど、「エコと防災」をキーワードに新製品や新事業の立ち上げに注力しました。また、起業家精神を持つ人材を育てるため、人事制度の拡充を図りました。自らの枠にとらわれず、あらゆる分野に革新的な発想を持つイノベーターが今後、グループを牽引してくれることを期待しています。

昨年まで10年間の長期経営計画を進めてきましたが、リーマンショックや東日本大震災など、厳しい環境下にあり当初は目標を達成できませんでした。しかし、最終となる第3次中期経営計画の成果として、当初の目標である営業利益率6.6%を超える7.1%を達成できたことは、大きな変革とっていいでしょう。

売上高 143,180百万円 / 営業利益率 7.1%
6期連続の増収、3期連続の過去最高売上を達成

Q. 4月に始動した新中期経営計画は「5ヶ年計画」となっています。その理由を教えてください。

A. ポスト2020を見据えて

これからの5年間は経営の転換期になります。東京オリンピック・パラリンピックまでは民間設備投資による後押しにより、2018年が仕事量のピークを迎えると予測しています。そしてオリンピック以降のBXグループのあり方を

定めるための準備期間とも言える5年間となるでしょう。新規事業の立ち上げや事業領域を拡大するM&Aの積極展開、海外事業の売上高を2020年度までに現在の3倍に増やしたいというも、当社グループを強固な経営体へと成長させ、このポスト2020年への備えとするためです。

Q. 新中期経営計画の基本的な考え方と骨子について聞かせてください。

A. 従業員に夢を与えられる計画

5年後のBXグループの姿を明示することで従業員に夢を与え、進むべき道に向かって自主的に行動して欲しいという思いがあります。明るく、元気に、素直に。「明・元・素」は当社グループに息づく文化の一つです。グループ全18社の従業員と当社に関わりのある協力会社、施工会社など、全ての人々の幸せを実現することが、私が社長に就任したときに一番に決意したことです。そのために、まずは2016年度からスタートさせた新中期経営計画を達成させることだと考えています。

新中期経営計画の内容(2021年3月期の目標)

基幹事業売上高	1,279億円(売上比率 64.0%)
注力事業売上高	602億円(売上比率 30.1%)
連結売上高	2,000億円

「基幹事業」の拡充

主力のシャッターとドアを中心とした既存事業の強化・拡充を図ります。成熟した市場では、常に変化する社会情勢やお客様の真のご要望にお応えできる高付加価値の追求を怠らないことが大切です。

軽量、重量、防火シャッター等、それぞれにおいて高付加価値の提案型商品の拡充を図り、社会やお客様への総合的なコンサルティング力で事業の拡大をめざします。また、今後5年間を見据え、大手顧客対応力を強化し、東名阪を中心に、営業職と現場管理を行う工務職を増員して、東京オリンピック・パラリンピック、再開発等の大型現場に対応できるよう注力します。



当社公式オンラインショップ(楽天市場)
http://www.rakuten.co.jp/bunka-s/

さらに今年度は、インターネット販売に参入しました。より気軽に、商品を比較検討していただけるよう、お客様のご要望にお応えできる商品をライン

アップしていく予定です。すでに多くのお問い合わせをいただいております。新たな販売チャンネルとして期待しています。

「注力事業」の体制強化

さらなるグループの発展を担う事業を、注力事業として展開していきます。

エコ・防災事業は継続して注力すべき事業と捉えています。さらに海外事業では、ベトナム、台湾、インドネシアにある拠点を中核に、ASEAN(東南アジア)を中心に販路を拡大し、事業の強化を図ります。この度、ベトナムの樹脂・アルミサッシのトップメーカー Eurowindow joint Stock Company との資本提携を行ったことにより、ベトナム国内における当社ブランドの浸透にも期待しています。また、改修や耐震工事などのビルリニューアルと住宅等のリフォームをロングライフ事業とし、ストック市場へも注力していきます。6月より義務化された防火設備の点検報告制度への対応も、重要な注力事業です。当社は創業まもなくして業界初のアフターサービス制度をスタートさせた歴史があり、まさに事業を活かした社会的責任を発揮する機会だと考えています。



Eurowindow joint Stock Company

快適環境のソリューショングループに終わりはありません。さらに進化させ、急速な変化にも対応しうるレジリエントなグループへと成長させることが私の使命だと思っています。それが私を育ててくれた文化シャッターへの恩返しであり、未来永劫、継続していきような経営をしていきたいと考えています。

BXグループのCSR

BXグループの持続的発展

持続可能な社会の実現

BXグループの事業とCSR

「お客様の幸せ」の実現をめざし、事業とCSRを一元的に推進します

BXグループでは、「お客様に『安心』『安全』を提供できる『快適環境のソリューショングループ』をめざす」を長期ビジョンに掲げ、事業活動を行っています。

特に長期経営計画の最終3ヶ年となる第3次中期経営計画では、お客様目線の高付加価値を追求し、お客様の生活に深く寄り添う「感性あるものづくり」を“ことづくり”と定義し、新しい時代へ向けた「快適環境のソリューショングループ」をめざしました。

当社グループの社是・経営理念には、「お客様の幸せ」という創業者の思いが込められており、この思いを従業員と共有することで、社会とともに持続的に成長できるよう、BXグループはさらに進化し続けます。

BXグループの事業活動

経営戦略

長期ビジョン

お客様に「安心」「安全」を提供できる
「快適環境のソリューショングループ」
をめざす

経営姿勢

チャレンジ精神 (挑戦力)
沸き立つ集団 (総合力)
独創力 (改革力)

事業計画の推進

中期経営計画

ライフ・イン

お客様の視点と生活感覚に適した
商品やサービスを提供すること

ライフロング・パートナーシップ

商品やサービスを通じてお客様の信頼を高め、
いつまでも末永くご愛顧いただくこと

企業革新の実現

- 営業力の革新
- 生産力の革新
- 商品力の革新
- 組織力の革新
- 経営基盤の革新

成果

事業を通じてステークホルダーのみなさまと
共有できる価値を創造する“ことづくり”で
社会とともに持続的に成長する

製品・サービスを通じた
社会課題の解決

→ P15・16

事業プロセスにおける
社会・環境への配慮

→ P13・14

コーポレートブランド



→ P1

BXは、当社グループが常に未知への挑戦を続け、進化していく姿を示すシンボルです。

活動の拠り所

CSR

CSR憲章 → P21・22

CSR行動指針 → P21

社 是 → P9

経営理念 → P9

CSRの原点

「お客様の幸せ」のために、常によりよい商品を提供することで社会のお役に立つ」という、奉仕の精神こそが私たちBXグループのCSRの礎となっています。

創業当初から買ってきたお客様目線のものづくりの精神と技術力で、お客様の暮らしに「安心」「安全」を提供する使命と役割を果たしてきたことが、今のBXグループの基盤をつくり、お客様をはじめとするステークホルダーのみなさまから信頼を得ることに繋がっています。

社 是

「誠実」

心のふれあいである。
真心のふれあいで信頼は生まれる。

「努力」

創造する行為の持続力である。

「奉仕」

自発的な行為、行動でお客様や社会のお役に立つこと。
お客様の立場に立った思いやりの心であり、
いたわりの精神である。

経営理念

私たちは、常にお客様の立場に立って行動します
私たちは、優れた品質で社会の発展に貢献します
私たちは、積極性と和を重んじ日々前進します

BXグループのステークホルダー

BXグループは、お客様に新たな感動や気付きを呼び起こし、新しいライフスタイルを提供する高付加価値の創造をめざしています。お客様の生活に寄り添い、感性を持って「見る」こと。そのために常に多様なステークホルダーのみなさまとの対話を重ね、ご要望やご期待に込めているかを検証できる、質の高いコミュニケーションを実践しています。

これらの機会をとおして、みなさまにBXグループのめざすべき姿やそれを実現させるための取り組みについてご理解、ご協力をいただくとともに、みなさまの声に真摯に耳を傾け、事業活動に反映させています。

企業市民としての主な責任

- 新しいニーズへの的確な対応
- 安全な商品の供給
- サービス品質の向上
- サポート体制の充実

お客様

- 新しいニーズへの的確な対応
- 人材の確保・技術者の育成
- 技術力の向上

建設・
建築業界

- 誠実な情報公開
- 経営の透明化
- 企業価値の向上と安定的な配当

株主・
投資家

- ワークライフバランスの実現
- 人材育成
- 労働安全衛生

従業員

- 環境負荷を軽減した企業経営
- 環境配慮技術・商品の講演会発表
- 自主的な環境保全活動

地球環境

- 法令の遵守
- 公共政策や諸活動への協力

行政

- 新興国の需要急増への対応
- 企業市民としての社会貢献
- スポーツ・文化活動の支援
- 人道的社会貢献 ● 雇用の創出と拡大

地域社会

- 公平・公正な取引
- 適切な競争環境の整備
- 施工技術者の育成

お取引先

主なコミュニケーションの機会

- 業務上での直接的なコミュニケーション
- ショールーム
- お客様サポート
- WEBサイト

- 業界団体の活動
- 展示会への出展
- ライフインセンター「体感ゾーン」、工場見学

● ショールーム

- 株主総会
- 決算説明会
- アニュアルレポート・株主通信
- WEBサイト上のIR情報開示

- グループ内人材交流制度
- 各種研修
- グループ広報誌
- イントラネット

- 展示会への出展
- 環境配慮技術・商品の講演会発表
- 清掃活動やイベントへの参加

- 展示会への出展
- 自治体との災害協定

- 被災地の復旧・復興
- 地域の防災イベントへの参加
- アルティメット競技 (文化シャッター「Buzz Bullets」の活動)
- 海外拠点での取り組み
- 学校教育支援活動
- ライフインセンター「体感ゾーン」、工場見学

- 説明会や調査の実施
- 商品知識や専門的技術の習得支援



展示会出展ブースの様子



グループ内人材交流制度 (海外派遣制度)



文化シャッター「Buzz Bullets」の活動



ライフインセンター見学者のみなさま

中期経営計画の 成果とその先へ

第3次中期経営計画の主な施策と成果

2015年度は長期経営計画の総仕上げとなる第3次中期経営計画の最終年度でした。

基本方針に「企業革新の実現」を掲げ、「営業力の革新」「生産力の革新」「商品力の革新」「組織力の革新」「経営基盤の革新」の5本柱を軸にした革新的な取り組みを実施しました。特に、お客様が体感できる感動や、新たな気付き、生活様式の提供などにより高い付加価値を提供する“ことづくり”をキーワードに、あらゆる分野におけるイノベーションを展開することによって当社グループの長期ビジョン達成をめざし、グループ一丸となって取り組みました。

2016年度からスタートさせた新中期経営計画においても、「進化する快適環境ソリューショングループ」として、さらに成長し続けます。

「革新」5本柱	中期経営計画の主な施策
営業力の革新	ドア事業の強化・拡充とグループシナジーの最大化
生産力の革新	施工力の強化
商品力の革新	ストック市場への対応強化
組織力の革新	「ライフ・イン」の発想による付加価値の高い提案型商品の拡充と拡販
経営基盤の革新	海外事業展開の拡充
	「エコ」と「防災」をキーワードとした“ことづくり”の実現
	人材育成の強化

営業力の革新

営業部門では、お客様の生活をより深く理解し、新たな感動を体験していただくための徹底した商品教育を通じ、お客様から信頼していただける高い商品知識を身につけ、優れた「総合提案力」で、お客様のご要望を顕在化する取り組みを強化しています。営業力の革新によってお客様のさらなるご満足をめざしています。

提案営業と営業支援強化でお客様に感動と信頼を提供する

“ことづくり”の視点から、お客様に合った付加価値を追求した提案営業による販売活動が、売上げ増という結果に結びつきました。また、設計データの共通化による作図作業のスピードアップ、工事員の増強など営業部門へのサポート体制をさらに充実させ、各部門間の連携により、お客様へのご提案から納品まで、全てのプロセスにおいてご満足いただけるよう努めました。

第3次中期経営計画開始前
(2013年3月期)比較
2016年3月期売上高

140%増

生産力・商品力の革新

出荷に生産を同期化させる「同期化生産の確立」や、工場の生産状況を営業と共有する「生産情報の見える化」等、生産基盤の再構築によりグループ全体の生産性を効率化し、生産総合力を強化することで生産力の革新に取り組み、さらに追求しています。

商品力の革新においては、お客様に喜んでいただける「オンリーワン、ナンバーワン商品」の開発に取り組むとともに、既存事業領域にとらわれない新商品企画プロジェクトやカンパニープロジェクトを推進するなど、革新的な取り組みに挑戦しています。

既存領域にとらわれないさまざまな視点で“ことづくり”を実践する

営業部門へのサポート体制強化と同様、生産部門においても各工場における生産リードタイムの短縮や物流の見える化を行い、売上にかかるコスト削減を実現しました。また、開発部門や各プロジェクトにおける商品開発にとどまらず、「営業が商品を作る」プロジェクトでは、お客様と接する営業担当者からの発想を取り入れた新商品の発売も実施しました。



車載用自動開閉リモコン「セレクルーズ」

中計3ヶ年売上原価率
2.5%減

中計3ヶ年新商品販売実績
24商品

組織力・経営基盤の革新

「企業革新の実現」の達成には、従業員の成長は欠かせません。高いモチベーションと行動力を持ち、独創的な発想で革新を起こすイノベーター(革新者)の育成をめざし、さまざまな制度改革に取り組んでいます。一人ひとりが生き甲斐を持ち、「昨日とは違う新しいこと」に挑戦する姿勢こそがグループ全体の活性化につながります。BXグループが強固な組織力でさらなる成長を遂げることを期待します。

また、グループ会社の社名に「BX」を冠することで一体感を高め、グループシナジーの最大化を図っています。

「人材」を創出し組織を成長させる

BXグループ全従業員を対象に、より広い視野で仕事の相互理解を深め、人的ネットワークを築き、自己の成長を促すことを目的とした、「グループ内インターンシップ」を実施しています。

またグローバル人材を育成する「海外派遣制度」のほか、起業家精神を育成する研修プロジェクト「起業塾」を開講するなど、従業員の成長を支援するさまざまな制度を拡充させることで、人材の育成に注力しています。



海外派遣制度

新中期経営計画(2016-2020)のVISION

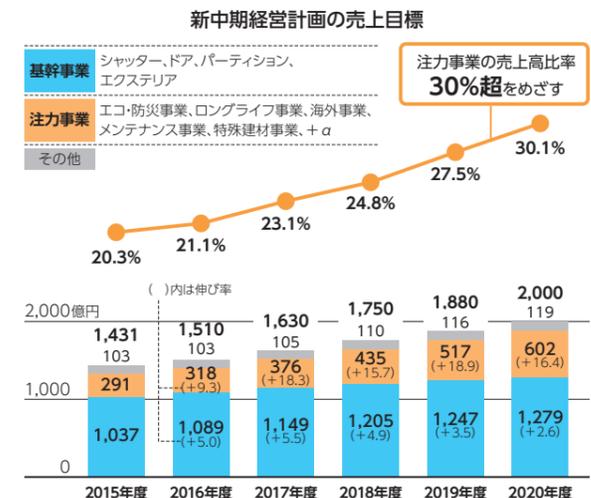
～進化する快適環境ソリューショングループ～

長期ビジョンである「快適環境のソリューショングループ」にさらに磨きをかけ進化させるのが、新中期経営計画の「ポスト2020VISION」です。従業員一人ひとりがお客様や変化する社会情勢を感性を持って「見る」こと。ソリューションすべき課題に対し、解決へ向けて率先して働きかける「For you」の精神—すなわち社生に基づいたBX商人道を念頭に、潜在化したお客様のご要望を顕在化するBXグループならではの「コンサルティング力」で、お客様に感動を与える“ことづくり”を実践していきます。



新中期経営計画の概要

基幹事業を伸ばしつつ、注力事業を成長させ、次世代経営へ向けた進化をめざす。



事業プロセスにおける 社会・環境への配慮

BXグループは、開発から資材調達、販売、製造、物流、施工、メンテナンスまで、一連の事業プロセスにおいて、それぞれの分野での重点課題を掲げることで、「安心」「安全」の品質向上を図っています。またあらゆるプロセスで環境負荷の低減に努め、効率的なバリューチェーンの実現をめざし、プロセス全体の総合力を高める取り組みを行っています。



効率的なバリューチェーンの実現

- 商品・サービスの情報提供・共有
- サプライヤーとのパートナーシップの構築
- 体制の整備・強化・拡充
- 公平・公正な取引
- 適正な競争環境の整備

社会面

それぞれの分野での重点課題への取り組み

● 新しいニーズへの的確な対応 → P23

中期経営計画の主な施策

「ライフ・イン」の発想による提案型商品の拡充と拡販

お客様の生活全般を捉えた感覚や視点で、必要とされる製品やサービスを提供する「ライフ・イン」のコンセプトのもと、お客様の生活に最適な提案型商品の拡充に努めています。



自動閉鎖装置付き引き戸
「カムスライダー屋外タイプ」
雨水対策を施した屋外タイプの引き戸



室内側
通風
レジスター
外部側
通気口
通風機能付きマンションドア
扉を閉じたままの通気が可能で
換気扇作動時も開閉の負担軽減



雨戸後付電動窓シャッターリフォーム「ヨコタテ」
横引き雨戸を最短3時間の工事で
電動窓シャッターにリフォーム

● 情報管理の徹底 → P36

● 製品の安定供給 → P36

● 長期的な安全性の確保

● CSR調達の推進

● 協力会社との連携

● 安全な運行

● 人材の確保・育成

● 取引先の確保

● グループシナジーの最大化

● 物流の効率化

● 環境配慮設計 (LCA) の推進

中期経営計画の主な施策 **グループシナジーの最大化**

2015年4月より、主に住宅用基礎鉄筋ユニットや溶接金網、ラス等の製造・販売を行っているBX西山鉄網がグループに加わり、当社グループが18社となりました。今後は事業領域の拡大や商品の拡充、顧客基盤の強化等、高いシナジー効果の創出を図ってまいります。



BX西山鉄網郡山営業所

● 省エネ活動の推進 → P29

● 環境配慮技術・商品開発

● グリーン調達の推進

● お客様目線の総合提案

● ゼロエミッションの推進

→ P29

● エコドライブの推進

● 廃棄物の分別徹底

● 高付加価値商品の提案

● 商品知識・技術力の向上

● 修理・メンテナンス品質の確保

● 現場ルールの厳守

中期経営計画の主な施策 **施工力の強化・人材育成の強化**

従来は当社研修所内（茨城県結城市）にのみ設置していた工事員のための研修・教育施設を姫路工場内に増設し、東西2拠点において効率的かつ計画的に技術や知識を習得できる体制を整備することで、さらなる施工品質の向上を図っています。



溶接研修



座学研修

製品・サービスを通じた 社会課題の解決

BXグループの事業領域



BX
BX GROUP

BXグループは総合建材メーカーとして、主力のシャッターやドアの生産販売にとどまらず、止水事業や太陽光発電システム事業などの幅広い分野で事業を行っています。グループ各社の強みを融合させた総合力で、お客様のさまざまなご要望にお応えする製品・サービスを提供しています。

ゲリラ豪雨へ

簡単設置で水を止める!

簡易型止水シート「止めピタ」



● 建物の開口部にスピーディ・簡単・コンパクト。シートで止水するニュータイプ

火災時に

確実に避難経路を確保!

開放軽減機構付き鋼製ドア「エア・バランス」



● 建物の防火扉に火災時に排煙設備が作動しても簡単に開く圧力差に負けないドア

高齢化社会へ

リニアの力で開閉を手助け

リニアモーター式電動タイプ「カムスライダー」



● 高齢者施設・福祉施設に少し動かすだけのアシスト操作で軽く・静かな引き戸

BXグループのソリューション

ライフ・イン

市場ニーズに適した商品やサービスを提供する「マーケット・イン」の発想をさらに進化させ、お客様の生活全般を捉えた感覚や視点で、必要とされる製品やサービスを提供します。製品やサービスを「安心」「安全」かつ末永くお使いいただき、お客様との持続的な信頼関係を構築していくことで、広く社会に対して持続的に貢献していきます。

ライフロング・パートナーシップ

<p>ユニバーサルデザイン</p> <p>バリアフリー対応をはじめ、快適な環境をサポートする製品など、ユニバーサルデザインの視点で多様なニーズにお応えします。</p> <p>高齢者集合住宅向け玄関ドア 自由開き折れ戸 学校用間仕切 トイレブース</p>	<p>防災</p> <p>防火・防煙性能を有した製品やゲリラ豪雨などによる浸水被害を防ぐ製品を取り揃え、企業のBCP対策を支援します。</p> <p>着脱式止水板 止水ドア</p>	<p>防犯</p> <p>確かな防犯性能に加え、利便性や快適性、デザイン性までも追求した多様な製品を取り揃えています。</p> <p>マンション玄関ドア オーバースライディングドア 窓シャッター ガレージシャッター</p>	<p>省エネ</p> <p>生産・物流施設向け、住宅向けともに多岐にわたる製品バリエーションで社会の省エネ化に貢献します。</p> <p>高速シートシャッター ソーラーパネル ホームオーニング</p>	<p>リサイクル</p> <p>木の風合いとプラスチックの耐久・耐候性にも優れた100%リサイクル建材「テクモク」が、さまざまな建築物に採用されています。</p> <p>ルーバー使用例 遊歩道施工例</p>	<p>リフォーム</p> <p>既存住宅の質の向上や流通の促進、多様なニーズに対応した幅広いリフォームサービスを提供しています。</p> <p>リビング施工例 キッチン施工例</p>	<p>アフターサービス</p> <p>全国127ヶ所のサービスステーションでBXグループが提供する各種シャッター、鋼鉄ドア・パーティション等の修理・点検業務を行っています。</p> <p>定期点検 修理対応</p>
---	---	--	---	--	--	--

地域を守り企業を守る 浸水対策ソリューション



取り組むべき課題の認識

拡大する水害リスク

近年、気候変動による異常気象が常態化しつつあります。例えば、台風は2014年から2015年にかけて19ヶ月連続で発生し、爆弾低気圧などによるゲリラ豪雨も頻発しており、局地的に被害をもたらす水害が増えています。2015年9月には関東・東北豪雨で鬼怒川が決壊。約7,000世帯が全壊、床上、床下浸水の被害にあいました。一般家庭ばかりではなく、企業にとっても浸水による被害は致命的になりかねない、回避すべきリスクです。

これまでに災害によって事業に影響を受けた経験がありますか？
(回答の多い順)

1 地震	45.6%
2 供給途絶(電力等インフラ)	12.6%
3 水害(津波以外)	11.7%
4 風害	7.6%
5 供給途絶(資材・部品等)	7.5%
6 津波	6.4%

出所) 内閣府防災担当「企業の事業継続及び防災の取組に関する実態調査」平成26年7月

水害に備えた事業継続計画

集中豪雨が頻発する状況にあっては、企業も水害への対策が求められます。災害時においても事業資産の損害を最小限にとどめ、事業を継続、早期に復旧させるためには「事業継続計画」(BCP: Business Continuity Plan)の構築が必要です。BCPの策定を核に、止水板などの設置による施設の防水対策、従業員の防災意識の向上など、「自助」の取り組みを積極的に進めることが大切です。

BXグループの事業戦略と実績

多様なソリューションで 適材適所の浸水対策を可能にする

都市部を中心にゲリラ豪雨などによる水害が社会問題となる中、当社は業界に先駆けて止水事業を立ち上げ、オリジナルの止水商品を開発、発売してきました。シートで止水するという、今までにない斬新なアイデアの簡易型止水シート「止めピタ」(→P15-16)。通常のドアのように手軽に開閉できる操作性を兼ね備えた止水ドア「アクアード」。開口部に金具で簡単に固定できるよう工夫したBX止水板「ラクセット」。いずれの商品も止水性能はもちろん、実際にご使用いただくお客様の立場で「簡単・スピード設置」のコンセプトに、徹底的にこだわって開発しました。使い勝手の良さ、導入しやすいコストが受け入れられ、自治体や企業のBCP対策として、また一般のお客様の浸水対策としても多くご採用いただいております。「超」モノづくり部品大賞<生活関連部品賞>などの評価もいただいております(→P24)。止水のニーズは、今後も増加していくことが予想されています。新中期経営計画では、「エコと防災」分野を注力事業として位置づけました。今後もお客様や、社会のニーズを捉えた新しい止水商品を提案し、広く普及させることでお客様や社会の課題解決に貢献していきます。



文化シャッター
取締役上席執行役員
新事業・新商品担当
嶋村 悦典

より詳しい情報

文化シャッター 止水製品シリーズ で検索



その場にいる人員で 最小限に浸水被害を制御

普段使いの操作性で
高い止水効果を発揮

止水ドア「アクアード」

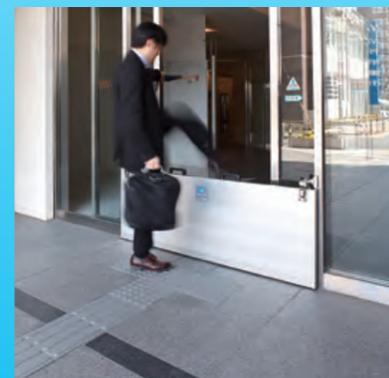
一般的なスチールドアと同等の軽い操作性と、高い止水機能を持ち合わせ、重厚な水密ドアに比べて低コストを実現させました。非常時にはレバーを引き上げるだけで屋内への浸水を防ぎます。



工事不要！
簡単設置の浸水対策

BX止水板「ラクセット」

人の出入りの多い店舗や出入り口が1ヶ所しかない建物では浸水対策が困難でした。BX止水板「ラクセット」が水圧をしっかり受け止めるので、設置後でも扉の開閉が可能です。



ステークホルダーの声

一般財団法人建材試験センター

常務理事 中央試験所長
川上 修 様



ゲリラ豪雨などで都市の排水能力を超える都市型水害が増加しており、浸水リスクの高い建物や地下進入口等の防水対策として、防水性能を持つドアや止水板が急激に普及しています。これらの評価には旧郵政省基準がありましたが、試験方法や対象製品が限定的でした。このため、防水性能を客観的に判断できる試験法の標準化が求められ、適用範囲、測定条件、手順等を明確に規定した建材試験センター規格「浸水防止用設備の浸水防止性能試験方法」を制定しました。既に文化シャッターでは本試験方法により浸水防止性能を確認しています。今後、透明性の高い試験データを得られる本試験方法が、当該設備の普及に寄与できることを期待しています。

〈一般財団法人建材試験センター <http://www.jtccm.or.jp/>〉

一般財団法人国土技術研究センター

研究主幹 首席研究員 首席研究員
岡安 徹也 様 / 沼尻 恵子 様 / 朝日向 猛 様



建設全般に係る研究の一環として、都市・地下空間の浸水対策に関する調査研究に取り組んでいます。河川・下水道等の公共施設は整備途上であり、気候変動の影響により、浸水被害が頻発化していることから、浸水に備えた企業や個人の対策が重要になっています。ハザードマップ等により浸水リスクを認識し、BCP/BCM等の対策を検討し、設備の高上げや、浸水防止設備の整備等、対策が望まれます。国・地方公共団体も補助や情報提供等の支援を講じています。浸水対策が進み、安全な都市・地下空間が形成されるよう、市場を通じた製品開発・供給の活性化、性能やコスト等のニーズにあった多様な選択肢の提供を期待しています。

〈一般財団法人国土技術研究センター <http://www.jice.or.jp/>〉

BCP対策に当社製品を採用したお客様

古賀オール株式会社 常務取締役統括工場長
織田 紀彦 様



古賀オールでは、発災時に会社の資産を守り、事業・業務の継続と、お客様への安定供給を確保するため、さまざまな災害を想定したBCP対策には特に力を入れています。当工場で行っている各種鋼板はその特性から、昨今のゲリラ豪雨に代表されるような浸水による被害は絶対に回避しなくてはなりません。文化シャッターの簡易型止水シート「止めピタ」は、突発的な豪雨で早急に対処が必要なきでも、その場にいる少ない人員で、短時間に設置することができ、さらなるBCP対策の強化に役立っています。



古賀オール 東京工場

〈古賀オール <http://www.koga-all.co.jp/>〉

災害に強い地域をつくるために、 産官民で顔の見える関係づくりを。



「快適環境ソリューショングループ」のさらなる進化をめざし、「エコと防災」をキーワードに事業を展開しているBXグループでは、近年頻発している大規模災害を早急に対策を要する社会課題であると認識し、グループをあげて防災ソリューションの開発・拡充に取り組んでいます。

また、企業は地域における課題解決の新たな担い手として、行政や地域のみならずとの連携、協働は必要不可欠と捉えており、今回のダイアログでは、「災害に強い地域づくりに果たす企業の役割と期待」をテーマに、文京区、社会福祉協議会、民生委員のみならずと意見を交換しました。

ダイアログ開催概要

開催日：2016年6月9日（木）
 場所：文京ボランティア・市民活動センター「フミコム」
 出席者：（下段写真真左から）
 社外参加者
 文京区総務部（危機管理室）防災課長 橋本 淳一 様
 社会福祉法人文京区社会福祉協議会 係長 平石 進 様
 文京区大塚地区民生委員児童委員協議会 会長 下田 和恵 様
 BXグループ参加者
 文化シャッター株式会社 止水事業部長 鈴木 松三郎 様
 文化シャッター株式会社 人事総務部 課長 佐久間 真哉 様
 文化シャッターサービス株式会社
 東京サービス支店 管理工務部長 高橋 和彦 様
 ※ 所属・役職は開催当時のものです。



集中豪雨への備え

浸水に対する自助の備えが大切

文化シャッター

ゲリラ豪雨などによる浸水被害の多発を背景に、当社では早くから止水事業に参入し、さまざまな製品を提供しています（→P17-18）。大型施設に特化した浸水防止用設備が多い中、既存の建物にも対応できる使い勝手や、扱いやすさを追求した製品を拡充。地下に重要設備を擁する建物や、発災時に対策本部の拠点となる自治体施設をはじめ、多くの企業のBCP対策としてご採用いただいています。異常気象が常態化する中、いざという時のための「自助の備え」をサポートしています。

社外参加者の意見

- 文京区では水害ハザードマップを作成しているが、浸水被害が想定される地域の方々には「自ら備える」ことを啓発していきたい（橋本様）。
- 保育園など女性が働く施設は多く、手軽に浸水対策ができるのであれば、もっと製品をアピールして欲しい（下田様）。

大規模災害への備え

“顔の見える関係”が地域防災を強化

文京区

文京区では3つの視点から大規模災害に備えています。1つ目は建築物の耐震化・不燃化を促し、災害に強い街づくりを進めるとともに、災害時の要配慮者に対する予防・応急対策を強化することで、人的被害を最小限に留める。2つ目は「自助・共助」の強化で、区民の防災意識をさらに啓発し、地域の防災行動力の向上を図る。3つ目は区の災害対応力の強化で、区の応急対策の活動態勢を強化し、広域的かつ多様な連携体制を構築するというものです。また、企業との連携は地域の防災力向上に必要であり、企業には地域の一員として区の防災訓練などに参加していただくなど、防災を通じた交流が深まることを願っています。

企業に対する期待・課題

- 区内で13万人と想定される帰宅困難者の受け入れや、応急・復旧対策等に企業の得意な面を活かして欲しい。
- 企業との連携は地域防災に不可欠。社会福祉協議会とも連携し、区民と企業、企業と行政がつながることが重要。

社会福祉協議会

社会福祉協議会（以下「社協」）は、社会福祉法に基づき地域福祉の推進を目的に、全国・都道府県・市区町村のそれぞれに組織されている非営利の民間団体です。大規模災害時において、ボランティアの支援活動が被災地の復旧復興に大きな役割を果たしています。文京区の社協では災害時に「災害ボランティアセンター」を設置し、ボランティアの力と区民の支援ニーズをコーディネートすることで、行政だけでは取り組むことのできない部分の復旧復興支援を行います。そのため、普段から災害ボランティアセンターを運営するスタッフの育成をはじめとして、行政や地域・関係機関等とのネットワークの形成などを行っています。

企業に対する期待・課題

- 人々の生活課題が複雑化し、企業の力がより求められている。
- 災害ボランティアセンターの運営では、企業には主にハード・ソフト両面での協力を期待したいが、普段からの関係づくりが大切だと考えている。

文京区民生委員

文京区の民生委員は、阪神・淡路大震災を教訓に1997年に防災部会を立ち上げました。発災時には、自力での避難が難しい要支援者の支援活動を行います。日頃から防災訓練に参加し、要支援者の安否確認方法や、避難所運営技術を習得しています。発足当初から作成している行動マニュアルは、法改正や状況の変化に応じて更新しており、今回の熊本地震を踏まえ、再度見直す必要性を感じています。迅速、的確な支援活動を行うためには信頼関係が何よりも大切。そのため普段から要支援者一人ひとりを見守り、必要に応じて訪問しコミュニケーションを深め、「顔の見える関係」づくりに努めています。

企業に対する期待・課題

- 防災に関わりのない業種はなく、あらゆる分野の企業が得意な面を活かし、全ての人々が協力し合う必要がある。
- 避難所には学校が多く、防火・防煙シャッターが設置されており、発災時に確実に作動するよう平常時のメンテナンスが重要。

文化シャッター

防災フェスタ（→P28）への出展を契機に、文京区との間で「災害時における相互協力に関する協定」を締結しました（→P25）。当社は、企業は「公器」と考え、また文京区に本社を置く企業として、地域への貢献を模索していました。災害時に少しでも帰宅困難者等の安全確保に役立てることを願っています。また、東日本大震災の教訓から、シャッターの応急修理ノウハウの蓄積や、初動・応援などの体制強化を図るなど、本業での災害時対応に備えてきました。4月に発生した熊本地震では、グループ間の密な連携による応急修理、全国ネットワークを活かした物資等の支援などを実施しました。

帰宅困難者受け入れの課題

- 受け入れ人数など今後整備しなければならない課題が多い。
- 区内他企業との連携も必要であり、発災時のシミュレーションについてアドバイスをいただきたい。

平常時のメンテナンス

「改正建築基準法」への対応

文化シャッターサービス

火災の拡大を防ぐ防火シャッターは、発災時に確実に作動しなければなりません。そのため平常時のメンテナンスが重要であり、2016年6月施行の「改正建築基準法」で義務化された防火設備の定期報告制度は、全国127拠点、24時間365日の稼働体制を持つ当社にとって、メンテナンスの質をさらに向上する良い機会であると捉えています。今後、検査にあたる有資格者の確保、育成とともに、検査内容を充実させ、文化シャッターサービスというプロ技術集団として、地域社会の予防保全に貢献していきたいと思っております。



CSRマネジメント報告

BXグループでは、社会の課題やニーズを踏まえた上で、社是・経営理念に基づく「CSR憲章」の4テーマごとに年度の目標を定め、活動を実践、評価しています。

CSR憲章

成長と共に

公正で誠実な事業活動を通じ、お客様から満足され信頼される商品・サービスを提供し、快適環境の創造を基本として、BXグループの成長を追求します。

社会と共に

人々の心を豊かにする活動に参加、支援することにより、良き企業市民として、社会の発展に貢献します。

地球と共に

全ての事業を通じ、エネルギーの省力化に努め、地球環境の保全に自主的に取り組みます。

働く仲間と共に

働く仲間の個性と創造性を尊重し、一人ひとりの満足と成長をめざします。

CSRマネジメント

「CSR憲章」4つのテーマと「CSR行動指針」を基に活動

BXグループは、社是・経営理念に基づいた「CSR憲章」と、それを実践していくための「CSR行動指針」を定めており、従業員一人ひとりが共感し、自ら実践することおよび、コンプライアンスを徹底することにより、社会から信頼される企業をめざしています。

CSR行動指針

成長と共に	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様の満足を追求 ● グループの成長・発展 ● 誠実な企業経営
社会と共に	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業市民としての社会貢献 ● 人道的社会貢献 ● 文化活動の支援
地球と共に	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境負荷を軽減した企業経営 ● 環境配慮技術・商品開発 ● 自主的な環境保全活動
働く仲間と共に	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権の尊重 ● 雇用の創出 ● 満足度の向上

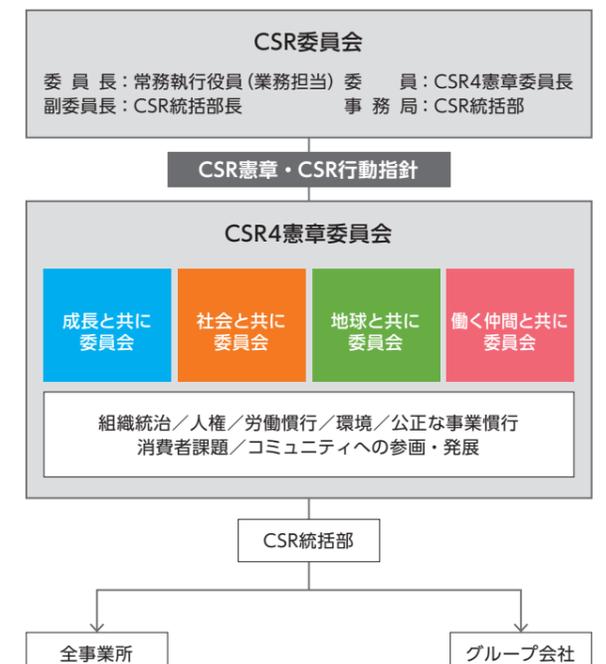
また、企業活動を遂行するにあたり、社会的責任やステークホルダーのみなさまからの期待に応えるべく、「CSR行動規範」として4つの約束を掲げ、企業人として守るべき最低限のルールを定めています。

CSR行動規範 (法令、規則に基づくルール)

顧客・取引先との約束	<ol style="list-style-type: none"> 1) 公正、公平な取引 2) 贈答・接待について 	<p>BXグループは、独占の禁止、公正な競争、公正な取引に関するあらゆる法令・規律を遵守します。</p> <p>BXグループは、業務上における接待および贈答の授受には細心の注意を払って対応します。</p>
従業員との約束	<ol style="list-style-type: none"> 1) 働きやすい職場環境の確保 2) 内部通報 	<p>BXグループは、働きやすく、やりがいのある職場づくりに取り組みます。</p> <p>BXグループは、公益通報者保護法に基づき、通報者の権利を保護します。</p>
株主との約束	<ol style="list-style-type: none"> 1) 正確な記録および報告 2) インサイダー取引の禁止 3) 利益相反の禁止 4) 会社資産の保護 	<p>BXグループは、会計帳簿、財務関係記録の全ての記録、報告に関して事実と反することなく、適時かつ適切に作成します。</p> <p>BXグループは、業務上知り得た未公開重要情報を株式や証券の取引による利益取得のために、利用しません。</p> <p>BXグループは、事業活動および業務上の判断を行う場合、BXグループにとって不利益とならないように考えて行動します。</p> <p>BXグループは、会社の資産を大切にします。</p>
社会との約束	<ol style="list-style-type: none"> 1) 情報の管理 2) 反社会的勢力への関与禁止 3) 知的財産権について 	<p>BXグループは、業務上知り得たBXグループおよび第三者の機密情報および個人情報、適切且つ厳重に管理します。機密情報には、公的に開示されていない情報、取引先との間で守秘義務を負っている情報、営業に関する情報、知的財産権に関する情報、財務情報、経営戦略情報および業務上のパートナーとの関係等の情報が含まれます。</p> <p>BXグループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関わりません。</p> <p>BXグループは、知的財産権を尊重します。</p>

CSR推進体制

常務執行役員(業務担当)を委員長、CSR統括部長を副委員長、CSR4憲章委員長を委員とする「CSR委員会」を設置し、活動方針を審議・決定しています。決定した方針に沿って、CSR4憲章委員会とCSR統括部が中心となってテーマごとに活動を推進しています。



2015年度の主な取り組み

目標	実績 (達成度: ○目標達成 △要改善)
● 「ライフ・イン」の発想による提案型製品・サービスの提供	● 工事不要で軽量タイプのBX止水板「ラクセット」およびHEMSと連動しスマートフォンでコントロール可能な電動窓シャッター「マドマスタースマートタイプ」等を発売 → P17-18、P29-30 ○
● ストック市場への対応強化	● 防火設備に関する検査報告制度への対応 ○
● グループシナジーの最大化とグループコンプライアンスの向上	● コンプライアンス教育の強化 ○ ● ベトナムにおけるグループシナジーの発揮 ○
● 東南アジアを中心とした海外事業の拡充	● Eurowindow joint Stock Company社との資本提携 ○

2015年度の総括と今後の取り組み

2016年度目標
● 「ライフ・イン」の発想によるエコ・防災事業の強化
● ストック市場に対するメンテナンス事業の強化
● グループシナジー最大化とグループコンプライアンスの向上
● 東南アジアを内需と捉えたパートナー戦略での海外事業強化

2015年度も、「快適環境のソリューショングループ」の実現をめざしたさまざまな取り組みが行われました。新しい時代に向けたイノベーションを起こすためには、全従業員が一丸となり、高い目標を掲げ、自ら考えた方策を実行する必要があります。グループの成長を推進する事業として、特に止水事業では近年のゲリラ豪雨への対応として生活者視点で追求した商品バリエーションの充実を図っており、2015年4月には既設の建物にも設置が簡単なBX止水板「ラクセット」の発売を開始しました。2016年度は新中期経営計画のもと、「新たな挑戦」を掲げ、経営基盤を軸に、開発、営業、製造、設計、施工の、それぞれの分野の中で、さらなる革新を図ることで目標を達成していきたいと考えています。

成長と共に委員長

文化シャッター
経営企画部
広報室長

曾根 政行



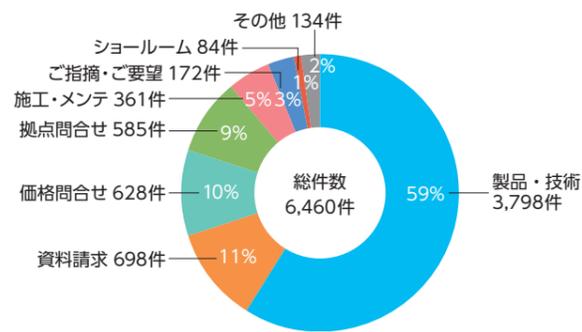
お客様の満足を追求

お客様相談室の取り組み

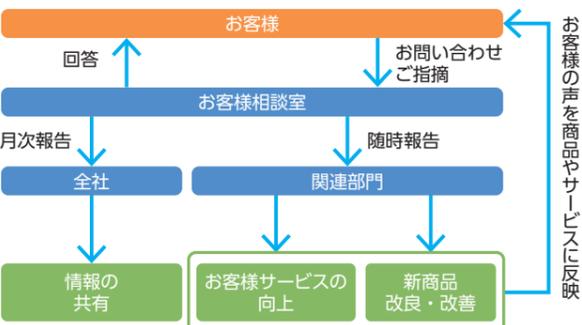
BXグループはお客様の要求品質に応えるために、企画、開発、営業、設計、購買、製造、施工、メンテナンス各部門の仕事の品質を向上させるとともに、グループ全体としての品質保証体制を構築し、お客様より信頼される品質をめざしています。その中でお客様相談室は、お客様と会社をつなぐ架け橋となるため、お客様から電話やメール等いただいたお問い合わせやご指摘に対し、適切、迅速そして誠実に対応することを心掛けています。

お客様からいただいた貴重な情報は、随時関連部門に伝え、新商品の開発や製品の改良・改善、ホームページやカタログのリニューアルに活かし、お客様満足の向上に努めています。また、社内のポータルサイトには月次報告を毎月掲載し、全社で情報の共有を図っています。今後もお客様より信頼される品質を追求し、邁進していきます。

2015年度 お問い合わせ内容



お客様対応の流れ



VOICE

お客様相談室は、お客様の声を直接受け取ることができる貴重な役割を担った部門です。お客様の声を社内へ公正、誠実に伝え、BXグループの成長と社会の発展に寄与できるように努めていきたいと思ひます。



文化シャッター
品質保証部
お客様相談室長

大井 勝

防火設備に関する検査報告制度への対応

建築基準法の一部改正により「定期報告制度」が見直され、防火設備は有資格者による専門的な定期点検が必要となりました。国が定めた建築物および特定行政庁が指定する建築物が点検対象となり、定期的な報告が義務づけられます。この「定期報告制度」は当社グループが掲げる2つのコンセプト、「ライフ・イン」「ライフロング・パートナーシップ」すなわちお客様との持続的な信頼関係を実践していくうえで絶好の機会となります。定期報告の対象となる防火設備はシャッターだけでも140万台はあり、BXグループでは2016年度より専門の組織を新設し、検査対応に向けて体制整備を行っています。今後も今まで以上にお客様に「安心」「安全」な快適空間の提供に努めていきます。

TOPICS 主な出展展示会

展示会	出展製品
高雄国際建材展(台湾)	住宅用オーバースライディングドア「フラットピット」
防災産業展in静岡	BCP対策製品
防犯防災総合展 in KANSAI 2015	防災関連製品
フードファクトリー2015	高速シートシャッター
食品工場改善設備展	
危機管理産業展2015	BCP対策製品
SAFETEC 2015	防災関連製品
第1回西日本防災・防犯危機管理展	
テントフェスタジャパン2016	BXテンパル製品

グループの成長・発展

ベトナムEurowindow社との資本提携

文化シャッターは、ベトナムにおける樹脂サッシ、アルミサッシのトップメーカーEurowindow joint Stock Companyとの資本提携を行い、アジア市場への本格参入に向けた協業をスタートさせました。当社は2009年にBX BUNKA VIETNAM Co.,Ltd.を設立し、各種シャッター・ドアの製造販売、および施工・メンテナンスを含めた事業を展開しており、今回の資本提携によりベトナム国内市場における相互の商品提供や共同開発が期待されます。



覚書を取り交す神田海外事業部長とHong社長

ベトナムにおけるグループシナジー効果

ベトナム・ハノイの都市開発エリアに新しくオープンした「イオンモールロンビエン」には、BX BUNKA VIETNAMをはじめとする当社グループ各社の商品が多数採用されており、グループの技術力が集結しています。地元企業から、ベトナムの工場では未経験のご相談をいただいたことがきっかけとなり、新たな挑戦の機会がお客様のご要望にお応えする結果となりました。協業関係にある不二サッシの

ご協力により、ベトナム人工事員への技術研修が実施されるなど、高いシナジー効果が発揮されました。



ハノイ・イオンモール
ロンビエン

誠実な企業経営

コンプライアンス教育の実施

BXグループでは、全従業員を対象としたe-ラーニングやイントラネットで短時間に学べる「コンプライアンス便り」の配信等を通じたコンプライアンス教育を実施しており、従業員には携帯サイズのCSR行動規範を配るなど、良き企業市民としての行動を徹底しています。今年度からは各エリアにおけるコンプライアンス研修を開始し、コンプライアンス意識の向上を図る取り組みを展開しています。

VOICE

東北支店では全国に先駆けCSR統括部法務担当によるコンプライアンス研修を、業務担当者を対象に行いました。普段の仕事に関わりがあるコンプライアンスについて、図や身近な具体的事例などを用いてとてもわかりやすく説明していただき、興味深く聞くことができました。



文化シャッター
東北支店

吉田 美江

TOPICS 主な受賞 (2015年度)

受賞製品	受賞名	主催
止水ドア「アクアード」	グッドデザイン賞	日本デザイン振興会
無線式危害防止装置「マジックセーフ」	グッドデザイン賞	日本デザイン振興会
BX止水板「ラクセット」	"超"モノづくり部品大賞「生活関連部品賞」	日刊工業新聞社
BX止水板「ラクセット」	読者が選ぶネーミング大賞「アイデアネーミング賞」	日刊工業新聞社
簡易型止水シート「止めピタ」	PVC DESIGN AWARD 2015「入賞」	塩ビ工業・環境協会

社会と共に

2015年度の主な取り組み

目標	実績 (達成度: ○目標達成 △要改善)
●被災地の子どもたちを笑顔にする支援活動の実施	●古本を集めて被災地や子どもたちを支援する団体へ寄付 ●「わたりこどもまつり2015」および「BXマルシェ東北うまいものフェア」を実施 ○
●当社グループ拠点所在地の自治体との協働を通じた災害発生時における周辺住民の安全体制構築への取り組み	●文京区との災害時における相互協力体制 → P19-20 ○ ●「文京区防災フェスタ」に出展 → P28 ○
●職場体験、就労体験、職場見学等への自社施設等の開放ならびに、次世代育成への積極的な取り組み	●BX新生精機が中学生の職場体験を受け入れ → P27-28 ○ ●本社エントランスにおいて社会福祉法人によるパンの販売を実施 → P27-28 ○

2015年度の総括と今後の取り組み

2016年度目標
●被災地の子どもたちを笑顔にする支援活動の実施
●当社グループ拠点所在地の自治体との協働を通じた災害発生時における周辺住民の安全体制構築への取り組み
●職場体験、就労体験、職場見学等への自社施設等の開放ならびに、次世代育成への積極的な取り組み

BXグループでは、創業以来、事業活動を通じての社会との関わりを大切にしてきました。2005年に「CSR憲章」を制定した後は、その傾向がより顕著となり、2015年度においても「社会と共に」の精神に則り、全国の事業所において、数多くの従業員がさまざまな活動を実施しました。下記に記載している活動はそのごく一部であり、その他、災害被災地での復興支援活動や、地元中学生・高校生を対象とした就業体験の受け入れ、チャリティーイベントへの協力など、当社グループ各事業所の従業員一人ひとりが、「地域のために」の思いを持って、各地域に根差した活動に自主的に取り組んだ結果です。今後も、「私たちだからできる社会貢献」を念頭に、地域社会にとって最適な活動に取り組み、良き企業市民として積極的に関わってまいります。

社会と共に委員長
文化シッター
人事総務部
課長
佐久間 真哉



企業市民としての社会貢献

わたりこどもまつり2015を実施

BXグループでは2011年の東日本大震災直後より、宮城県亘理町と交流を持ち、主に児童館の子どもたちを対象とした支援活動を継続して実施しています。2015年に亘理町が町制施行60周年を、当社が創立60周年を共に迎えた節目として、同町教育委員会他と共催した「わたりこどもまつり2015」を実施し、当社が支援する野口健氏による講演会や、浦和レッドダイヤモンズ選手OBによるサッカー教室、そして当社実業団チーム「Buzz Bullets」によるフライングディスク教室など、約600名のみなさまにご参加いただきました。



浦和レッズのOB選手によるサッカー教室

from STAKEHOLDER

亘理町は、大学4年間を仙台で過ごした私にとって、よく遊びに行った思い出深い場所でもあります。わたりこどもまつりに参加したことで、亘理町の子どもたちと交流でき、私自身も楽しませていただきました。復興にはまだまだ時間がかかると思いますが、子どもたちの笑顔とパワーで乗り越えて欲しいと思います。



浦和レッドダイヤモンズ選手OB ジュニアユースチームコーチ

内館 秀樹氏

第3回BXグループ富士山清掃活動

BXグループでは、アルピニスト野口健氏の活動に賛同し、協賛しています。第3回目となる富士山清掃活動には、BXグループや協力会社の従業員とその家族、総勢228名が参加しました。清掃活動後の講演会では、ヒマラヤ大震災発生

時に偶然現地に滞在していた野口氏の体験談が語られ、現地の惨状や環境問題について考える機会となりました。BXグループでは「ヒマラヤ大震災義援金」を立ち上げ、「野口健ヒマラヤ大震災基金」に寄付しました。



第3回BXグループ富士山清掃活動

人道的社会貢献

文京区との災害時における相互協力体制

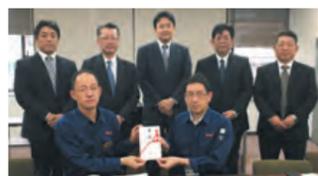
文化シッターは、本社所在地である文京区との間で、大地震や風水害等が発生した場合における備えとして、「災害時における相互協力に関する協定」を締結しました。この協定は、文京区地域防災計画に基づいて締結されたもので、災害時に帰宅困難者等の安全確保を図るため、本社施設の一部を開放し、災害発生日から起算して最長で3日間、施設と非常食をはじめとした災害用備蓄品を提供する内容となっています。

(左から)成澤廣修文京区長と当社茂木会長(当時社長)による調印式



「平成28年熊本地震」被災地への支援

2016年4月の熊本地震発生にとまない、文化シッターでは義援金500万円と避難所でのプライバシーを確保するための間仕切り400名分を寄贈しました。現地では当社福岡工場を拠点として、いち早く飲料水や簡易トイレ等の物資による支援を開始し、同時に破損や開閉困難となったシャッターへの取扱注意喚起および、迅速な応急体制で対応しています。今後も被災地のニーズに沿った支援活動を継続していきます。



熊本県庁での目録の贈呈

文化活動の支援

文京区地元クラブチームを支援

文京区を拠点に、日本初の地域コミュニティと大学コミュニティを融合したサッカークラブ「LB-BRB 東京」と、「文京LBレディース」。文化シッターは、両クラブが掲げる「サッカーを通じて、人をつくり、社会をつくり、未来をつくる」という理念に賛同、潮崎社長がスペシャルサポーターに就任し、オフィシャルスポンサーとして活動を応援しています。

〈LB&BRBサイト
<http://lb-brb.tokyo/>〉

LB-BRB東京



from STAKEHOLDER

この度、ご縁あってご支援いただくこととなりました。日本の中心である東京、さらに文化の中心たる「文の京」文京区において、真のスポーツ文化を体現すべく、日本のロールモデルとなりうるクラブをみなさまと共に創り上げていきたいと思っています。応援よろしくお願いします。



一般社団法人 CLUB LB&BRB 共同代表理事 兼 監督 福田 雅氏

TOPICS Buzz Bullets

文化シッター「Buzz Bullets(バスパレット)」は、2016年7月に開催された第41回文部科学大臣杯全日本アルティメット選手権大会にて、前人未踏の18連覇を達成しました。メンバーは、後輩選手の育成指導や競技の普及活動の他、社会貢献活動においても大いに活躍しています。



「Buzz Bullets」:フライングディスクを使ったアルティメット競技における、唯一の実業団チーム

産学連携によるBXマルシェを開催

文化シッターでは、東洋大学社会学部社会福祉学科「社会貢献体験プログラム」に参加し、学生の受け入れを実施しています。当社の東北復興支援活動の一環である「BXマルシェ東北うまいものフェア」において、従業員と共にスタッフとして参画した学生は、お客様対応や集客活動に熱心に取り組みました。当日は、多くの地域住民や近隣企業のみなさまがご来場になり、出店した被災地の方々にも好評をいただきました。



会場の様子



宮城県亘理町役場のみなさんと東洋大生

from STAKEHOLDER

ビジネスメールのやりとり、自分の意思を相手にきちんと伝えることなど、学生にとって企業人との出会いは、貴重な学びの場となりました。企業と地域社会との関係、企業が取り組むCSRのありかた等、将来を描く機会ともなったようで、企業と大学の協働の意義を実感しました。



東洋大学 社会学部 助教 林 大介氏

TOPICS Buzz Bulletsの社会貢献活動

主催	大会・講習会
文京区スポーツ振興課	文京ジュニア・アスリートアカデミー(アルティメット講習会)4月・8月
vhaulkidsチーム	第1・2回vhaulkidsカップ
東京ドームスポーツ	文京区体育の日スポーツフェスタ
文京区スポーツ振興課 文化シッター	フライングディスク体験教室/アルティメット大会 → P27
文京区スポーツ振興課 NPO法人えこお	スポ・レクひろば(知的障害者のためのスポーツレクリエーションひろば)
埼玉県学生保育レクリエーション	フライングディスク体験教室
Happy Disc Project	亘理町ドッジビー大会



東京都スポーツ推進大使「ゆりーと」との記念撮影

フライングディスク教室&アルティメット大会

文化シャッターフライングディスク部「Buzz Bullets」は、初めての方、お一人での参加やご家族でも気軽に簡単に楽しめる「フライングディスク教室」と、文京区初の大会となる「アルティメット大会」を、文京区との協働で開催しました。会場となった小石川運動場には、子どもから大人まで、約100名の参加者が集まりました。

アルティメットはいろいろな世代が共に楽しめるスポーツであり、会場の至るところから大きな歓声があがり、おおいに盛り上がりました。

※アルティメット：フライングディスク（フリスビー）を用いたバスケットボールとアメリカンフットボールを融合した競技で、チーム内でフライングディスクを落とさずにパスをつなぎ、敵陣エンドゾーン内でディスクをキャッチすれば得点となります。

アルピニスト野口健氏による講演会を開催

文化シャッターが協賛するアルピニスト野口健氏による講演会を、大阪において開催し、大阪BXビルに入居する関西支店をはじめとする従業員のほか、協力会社の方にも多数ご出席いただきました。野口氏の壮絶な体験から語られる人間論や世界から見た日本の環境問題に多くの出席者が魅了され、心揺さぶられる講演会となりました。全国における講演会は、昨年度の姫路に引き続き2回目となります。今後とも、このような活動を全国的に展開していきます。



アルピニスト野口健氏

「トライやる(中学生の職場体験)」の受け入れ

「トライやる(中学生の職場体験)」は兵庫県が1998年より開始したインターンシップ制度です。BX新生精機ではその翌年から参加し、通算36人の生徒を受け入れました。受け入れた生徒や生徒の友人が当社に就職し、従業員として勤務している例もあり、地域との繋がりを感じる活動となっています。

また、2007年からは高校生のインターンシップの受け入れも開始しました。

作業内容は、部品から組み立て製品にする作業ですが、完成したときの喜びが毎回生徒の感想文に書かれており、感動しています。よき伝統を継承しつつ、新しいを生み出して今後も社会の一員でありたいと考えています。



作業する中学生たち



中学生の作成した感想レポート

地域の福祉団体によるパンの販売

文化シャッターでは、障がい者自立支援の一環として、月に一度、本社BXビルのエントランスロビーにおいて、社会福祉法人山鳥の会によるパンの販売を行っており、近隣住民の方々にも開放しています。2013年より開始したこの活動により、従業員からは「パンを購入することが支援に繋がり、気軽に参加できることで福祉について考える機会となった」「福祉団体の方や地域住民の方との距離が近くなった」などの声が上がっています。



「山鳥の会」スタッフによるパン販売の様子

小学校での避難訓練に参加

文化シャッターサービスでは、香川県内小学校の避難訓練に参加し、避難誘導方法についての指導を実施しました。実際に防火シャッターを作動させシャッターが降下した状態において、児童が安全に避難できるよう、児童の目線や動線についての注意事項等を交えながら、教職員の方々に体験していただきました。今後も障がい者の就労支援やシャッター破壊訓練のほか、積極的にこのようなご要望にお応えすることで、お客様に安心・安全に製品をご使用いただきたいと思います。



児童を誘導しながらの訓練の様子

「文京区防災フェスタ」に出展

文化シャッターは文京区主催の「文京区防災フェスタ」に昨年に引き続きブースを出展しました。

この「文京区防災フェスタ」は、警察、消防および自衛隊による救助訓練の実演や区内の大学・団体・企業等による展示ブース出展など、区民や区内在勤者に対して災害への備えを呼びかけるイベントとしてリニューアルされたもので、当社は2014年から防災関連商品の展示等を行っています。

当社のブースでは、代表的な止水製品の展示や紹介映像の上映などを行い、足を止めて展示品に触れたり、説明を熱心に聞いてくださる方が多く見られ、当社防災商品をPRする絶好の機会となりました。

文京区との「災害時における相互協力に関する協定」締結(→P25)は、2014年の「文京区防災フェスタ」への出展がきっかけとなったものです。



文京区教育の森公園で行われた防災フェスタ



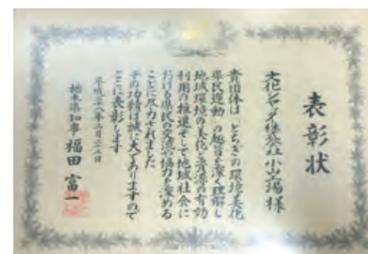
止水製品の展示

BX BXグループのエリア活動

BX GROUP BXグループでは、全国にある各事業所が主体となってCSR活動を推進しています。

「環境美化県民運動」表彰受賞しました

文化シャッター小山工場では、工場周辺の定期的な清掃活動のほか、豊穂川の「桜ライトアップ活動」の実施や思川河川敷で実施されている「ふるさと清掃活動」への参加等の活動が認められ、「環境美化県民運動」の表彰を受けました。同賞は、「とちぎの環境美化県民運動」の表彰を受けます。



表彰状

趣旨を理解し、地域における環境美化活動の推進に顕著な功績、功労のあった団体等を表彰するものです。

今回の受賞を通して思いを新たに、これからも地域に根づいた清掃活動や社会貢献活動に取り組んでいきます。



環境美化功労賞授与式

2015年度の主な取り組み

目標	実績 (達成度: ○目標達成 △要改善)
● 電気とガソリンを中心としたエネルギー原単位の削減 (2014年度比1%削減)	● 省エネ活動やLED、太陽光発電システム等の導入によりエネルギー原単位の削減目標を達成 ○
● ゼロエミッションの継続とグループ会社への展開	● 文化シャッターの7工場、グループ会社の3工場でゼロエミッションを達成維持 ○
● サプライチェーン全体での環境負荷低減の推進	● 調達ガイドラインの見直し △
● 「エコ」をテーマとした環境貢献商品の開発	● HEMS対応の窓シャッター「マドマスター・スマートタイプ」を発売 ○
● 自主的な環境保全活動の推進と支援	● 「よなご環境フェスタ2015」等の環境イベントに出展し、子どもたちの環境保全活動を支援 ○

2015年度の総括と今後の取り組み

2016年度目標
● 電気とガソリンを中心としたエネルギー原単位の削減 (2015年度比1%削減)
● ゼロエミッションの継続とグループ会社への展開
● サプライチェーンと連携し、環境負荷を低減
● 「エコ」をテーマとした環境貢献商品の開発
● 自主的な環境保全活動の推進と支援

BXグループでは地球規模で深刻化する環境問題に対し、CSR憲章「地球と共に」に基づき、事業活動とお客様に提供する商品やサービスを通じた環境保全に取り組んでいます。2015年度は、省エネ機器の導入やグループ全体で節電を継続することにより事業活動におけるエネルギー原単位の低減を実現するとともに、HEMSに対応した窓シャッターなどお客様のエコと快適な暮らしをサポートする商品の提供を行いました。また、ゼロエミッション活動をグループ会社に展開するとともに、施工現場などで発生する廃棄物についてもリサイクルを推進しました。2016年度は、「エネルギーの見える化」により事業活動における省エネ活動を推進するとともに、サプライヤーのみならずと連携し環境保全の取り組みを進めていきます。



環境負荷を軽減した企業経営

グループ全体で環境負荷低減活動を推進

BXグループでは、エコアクション21を基盤とした環境経営システム(EMS)を構築し、グループ全体をあげて環境法令の遵守、環境負荷の低減に取り組んでいます。文化シャッター小山工場、BX新生精機、BXテンパル埼玉工場では、環境マネジメントの国際規格ISO14001認証を取得しています。

省エネの取り組みについては、高効率照明機器やインバータ式コンプレッサー等の省エネ機器導入、ガスヒートポンプエアコンへの切り替え、電力デマンドの適正な管理によるエネルギー使用の平準化、太陽光発電システムの導入、およびエコドライブの推進等の取り組みにより、電気使用原単位を5.2%、ガソリン使用原単位を3.3%削減(2014年度比)しました。

廃棄物については、グループ全体で廃棄物の分別、リサイクルを推進し、総排出量を36.3%削減(2007年度比)しました。ゼロエミッション活動については、文化シャッター全7工場で達成しています。さらに、グループ会社にも活動を展開し、新たにBX鐵矢を加えた3工場でもゼロエミッションを達成することができました。

また、生産活動で使用する化学物質についても適正な管理と排出量の削減に取り組んでいます。



掛川工場(LED照明)

BX鐵矢廃棄物分別

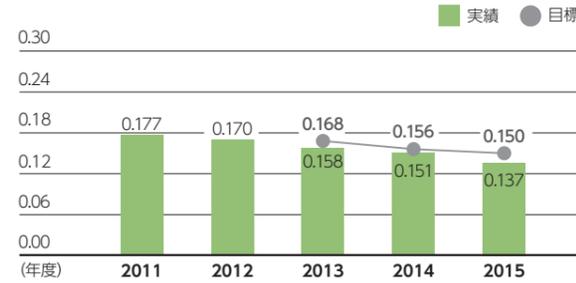
VOICE

BX鐵矢は、以前より「エコアクション21」の認証を取得していましたが、BXグループ加入をきっかけに、もう一步踏み込んだ「ゼロエミッション」を目標に活動し、2016年3月末に達成することができました。エコアクション活動で分別はある程度できていたため最大の課題はリサイクルでした。リサイクル可能な品目、回収時の出し方などを確認して業者を決めました。分別に不備があった場合は、現場の写真を撮り全体会議で従業員に周知し協力してもらいました。今まで捨てていたモノがリサイクルされることにより、少しでも地球環境保護に役立てばと思います。

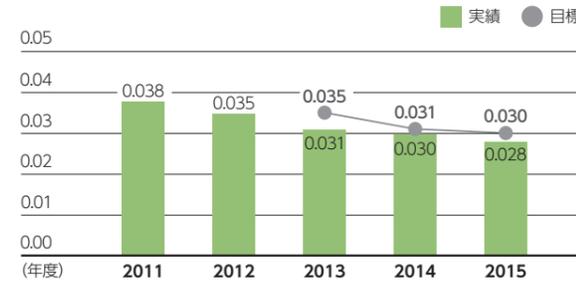


BX鐵矢
業務課
渡邊 新太郎

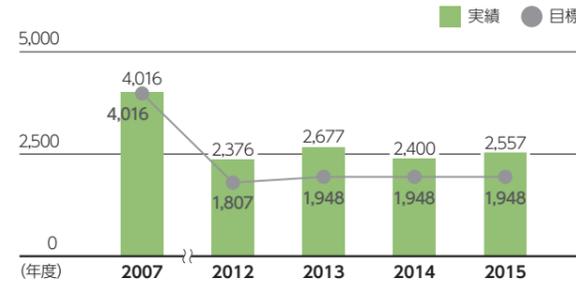
電気使用原単位の実績と削減目標 単位(千kwh/百万円)



ガソリン使用原単位の実績と削減目標 単位(kl/百万円)



廃棄物排出量の実績と削減目標 単位(t)



環境配慮技術・商品開発

スマートフォンで家じゅうの窓シャッターをコントロール

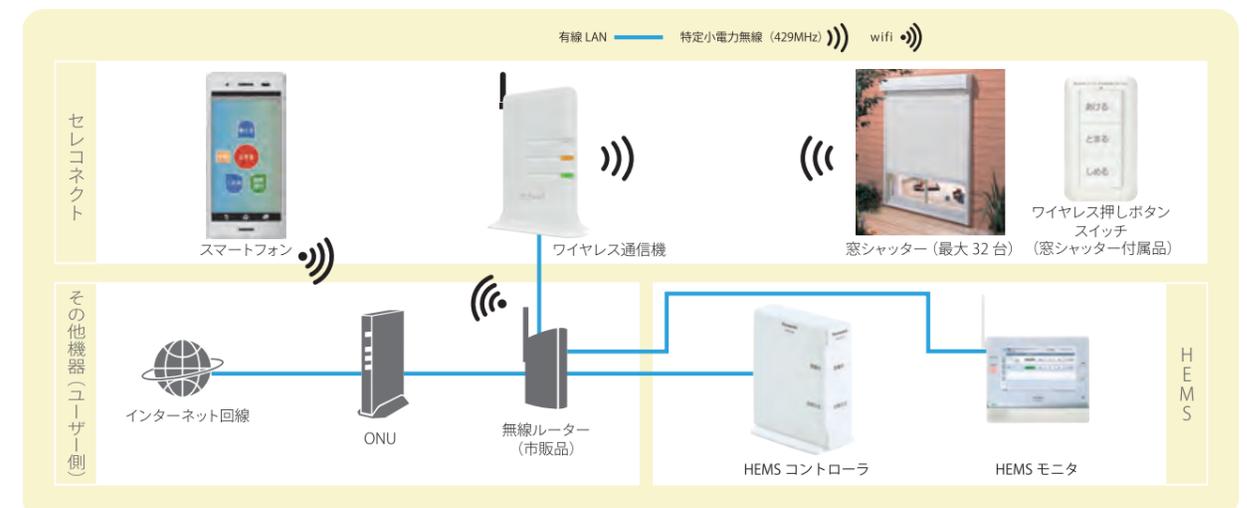
スマートフォンの操作で家じゅうの窓シャッターをコントロールし、多機能タイマーにより安心かつ快適な暮らしをサポートする電動窓シャッター「マドマスター・スマートタイプ」を開発しました。

「マドマスター・スマートタイプ」は、住宅の家電や電気設備の使用量を可視化し、自動制御で効率的に節電する管理システム「HEMS」の標準通信規格ECHONET Lite*に準拠した業界初の窓シャッターです。

スマートフォンを活用することで、窓シャッターの開閉状況を外出先から確認できると同時に、帰宅が遅くなるなど戸締まりが心配なときや、台風や竜巻の発生時にも素早い対応が可能で、防犯と防災の両面で安心・安全をサポートできるようになりました。今後も、エコで安心かつ快適な暮らしをサポートする製品やサービスを開発し、需要拡大と普及に貢献していきます。

*ECHONET Lite: 家電機器、スマートメーター、太陽光発電システムなどを含む約80種類以上の機器と通信できるHEMS構築のための通信規格。ISO規格、IEC規格として国際標準化されています。

スマートタイプHEMS接続イメージ



VOICE

2020年に義務化される改正省エネ基準に向けて、住宅メーカーや電機メーカーがHEMS導入に力を入れています。このような市場環境や動向をいち早くつかみ、他社に先駆けてHEMSと連携できる電動窓シャッター「マドマスター・スマートタイプ」を開発しました。窓シャッターは日射遮蔽による室内温度上昇の抑制に効果があり、エネルギー利用の最適化というHEMSの目的に合っています。当社の強みである無線技術を活用し、窓シャッターの防犯、防災の機能をより高め、さらに省エネにも貢献できる新しい価値を生み出すことができました。これからもお客様の視点で、かつ地球環境の保全にも役立つ商品を提案、開発していきたいと思ひます。



文化シャッター 商品開発部 開発一部
開発二部
田村 淑佳 岡田 海渡、DAO DAC NGOC

自主的な環境保全活動

よなご環境フェスタで環境ワークショップ開催

「よなご環境フェスタ2015」が2015年9月19日に米子市文化ホールで開催されました。この催しは、身近な自然環境から地球規模の環境問題について、市民一人ひとりが学び、考え、環境保全意識を高めてもらうことを目的とした米子市主催の環境イベントです。米子市からの要請を受けて、初出展しました。

文化シャッターのブースでは、建築解体現場や工場などから排出される廃木材と、廃棄処分となったプラスチックを原材料とした100%リサイクル素材である『テクモク』の端材で写真立てを作るワークショップを開催しました。

参加した子どもたちは、学校等で集めているペットボトルキャップがリサイクルされてこのような材料に生まれ変わることや、ベンチやデッキなど身近な建材製品として世の中での役に立っていることを知り、日々の環境への取り組みの大切さを改めて実感していたようでした。

今後も、エコ建材の普及を通じて、環境負荷の低減に努めていきます。



よなご環境フェスタ2015

VOICE

今回の「よなご環境フェスタ2015」は子どもを中心に開催されたイベントでしたが、使用後も廃棄されることなく再生される『テクモク』の製作工程に、大人も一緒に驚いていたことがとても印象に残りました。また、このイベントでは来場者に『テクモク』の端材から写真立てを作るワークショップを開催しました。このような体験型の催しは、子どもの関心を引き、楽しみながら環境問題を考える機会になったのではないかと思います。今後もこうした活動を継続していくことで、次代を担う子どもたちの環境意識をさらに高めていくことが大切だと感じました。



文化シャッター
中四国支店鳥取営業所
大久保 洋子

化学物質の適正な管理

生産活動で使用する化学物質についても適正な管理と排出量の削減に取り組んでいます。

化学物質 大気への放出量・移動量 (t)

	大気への放出量	移動量
エチルベンゼン	29.6 ↓	2.6 ↑
キシレン	66.9 ↓	6.4 ↑
トリメチルベンゼン	0.0 ↓	0.0 ↓
トルエン	33.3 ↑	10.0 ↓
鉛その他化合物	1.2 ↑	11.5 ↓
その他	1.0 ↓	1.7 ↓
合計	132.0 ↑	32.2 ↑

TOPICS 環境法令遵守の取り組み

小山工場では、生産工程において化学物質を使用しているため、管理、および汚染防止に取り組んでいます。水質汚濁汚染法の改正にともない、工場内の化学物質を使用している関連施設（貯蔵施設、付帯する配管等を含む）について調査を行いました。その結果、「化学物質の地下浸透」の可能性がある塗装ラインの排水水集水施設について、トレンチ内に塩ビ配管を通し、排水処理設備までの配管を地上化するなどの改修を実施しました。これにより、汚染防止と定期的な保守が行える環境を整えました。

また、排水処理設備を新設する際には、法令の構造基準に則った設備の導入を行いました。今後も、年々強化される環境法令の遵守・徹底に努めていきます。



水濁法対応施設

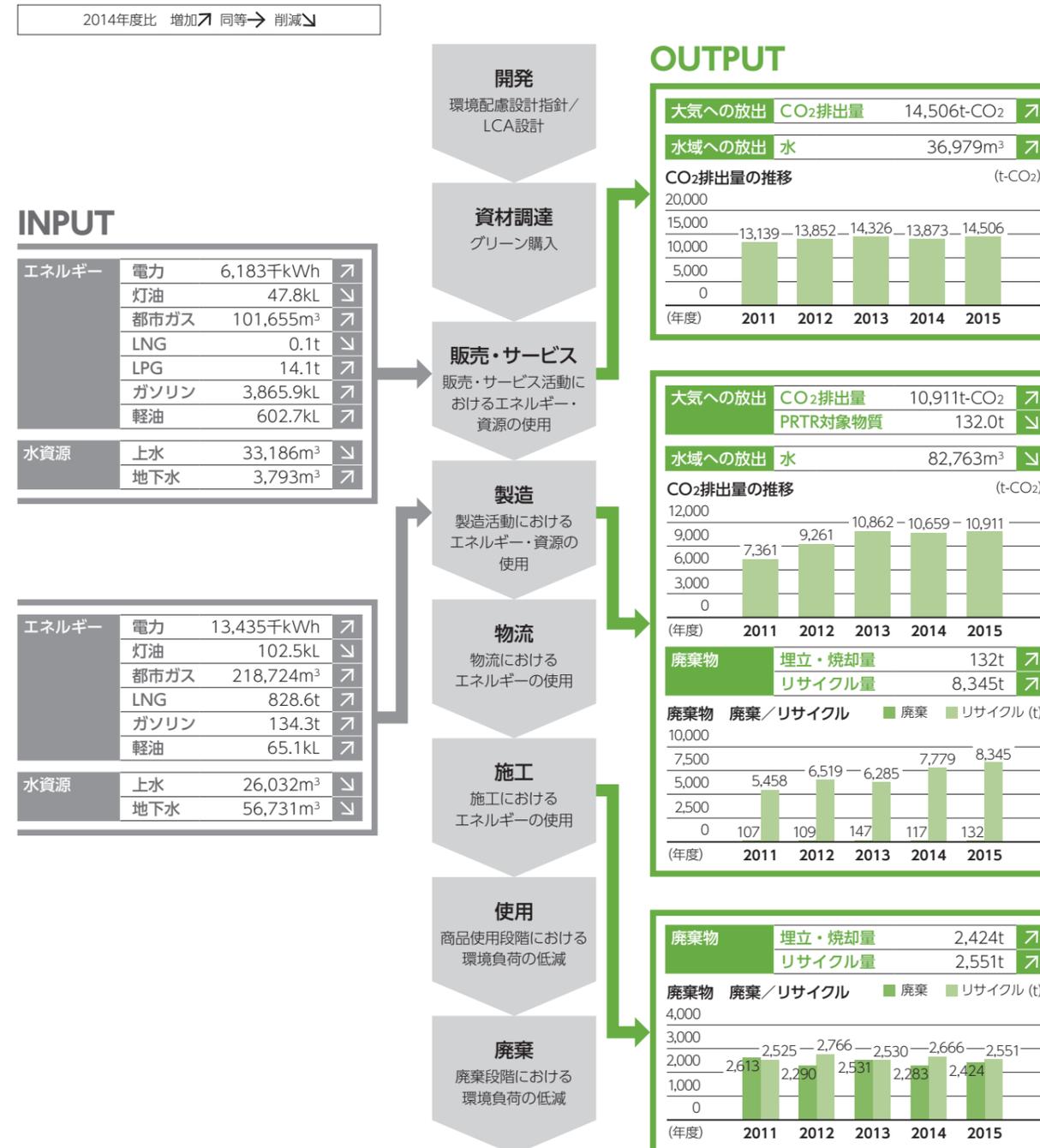
BXグループ 環境負荷の全体像

BXグループ・環境方針

環境理念	行動指針
人・社会・環境にやさしい商品づくりに積極的に取り組み、「快適環境のソリューショングループ」として健全で豊かな社会の実現に貢献します。	<ul style="list-style-type: none"> 省エネやリサイクル活動を積極的に推進します。 環境関連法規制及びその他関連事項を遵守し、環境汚染の予防と継続的な改善に努めます。 環境保護・改善に寄与する製商品の開発・設計、及び資材の購入に努めます。 製造～販売～物流～施工及びアフターサービスの各段階でもたらされる環境負荷の低減に努めます。 社員一人ひとりが環境への意識向上を図るとともに、企業市民として環境保護活動を推進します。

2008.6.12 代表取締役社長 茂木 哲哉

2015年度の事業活動による環境負荷の全体像



働く仲間と共に

2015年度の主な取り組み

目標	実績 (達成度: ○目標達成 △要改善)
● イノベーション人材の育成を目指して、環境や制度を整備する	○
● 多様な人材を育成する施策で、従業員のモチベーション向上を図る	○
● 生産性を向上させる取り組みで、ワークライフバランスの実現を図る	○
● 従業員の健康を保つために、メンタルヘルスケアに取り組む	△

- 人事制度の改革および拡充を図り、イノベーター育成のための起業塾生による成果発表会を実施
- 育児休業制度や介護・特定疾患休暇積立制度の実施
- 理想の工場構想プロジェクトの実施
- e-ラーニングによるメンタルヘルス学習や健康相談日の設定

2015年度の総括と今後の取り組み

2016年度目標

- 自ら考え、自ら行動する組織風土の浸透を図る
- 従業員同士が活発なコミュニケーションを図ることができる環境や制度を整備する
- 生産性を向上させる取り組みで、ワークライフバランスの実現を図る
- 従業員の健康を保つために、メンタルヘルスケアに取り組む

2015年度も「働く仲間と共に」に基づいた数多くの取り組みが全国各地で実施されました。中でも、起業家精神を持った従業員を育成するための研修「起業塾」では、約10ヵ月の研修の中で、当社をとりまく環境や将来像について討議し新事業・新商品を提案することで、発想を転換する力などが養われたと思います。また、海外派遣制度では上司推薦から公募方式へ変更するなど、従業員のチャレンジ精神と組織風土の革新を図りました。

2016年度は、数年取り組んできた「自ら手を挙げチャレンジする」ということを組織風土として浸透させつつ、全ての従業員が会社や自分の仕事への矜持を持つことができるようになっていきたいと思います。

働く仲間と共に委員長

文化シャッター
人事総務部
部長

宮下 貴博



人権の尊重

ワークライフバランスの推進

BXグループでは、ワークライフバランスの実現をめざし、育児や介護をしながら仕事と家庭を両立させ、充実した生活を送れるよう、多様な働き方への支援に取り組んでいます。育児休業制度では子どもが3歳に達するまで取得できる育児休業制度や6歳に達するまで利用できる短時間勤務制度を採用しています。また介護・特定疾患休暇積立制度においては、失効する(時効で請求権がなくなる)年次有給休暇から、年間5日を限度に積立て、ご家族の介護や特定疾患に罹病した場合に、有給休暇を取得することができます。今後もBXグループでは、従業員がいきいきとその能力を發揮できる環境整備に取り組んでいきます。

メンタルヘルス対策

BXグループでは、産業医による「健康相談日」の設定や、e-ラーニングでのメンタルヘルス・セルフケア教育を通じ

て、従業員のこころの健康管理に取り組んでいます。特に健康相談では、定期健康診断結果の相談や、従業員の体調に関することなどを産業医に相談することで、不安の解消に努めています。また、月に一度開催される「衛生委員会」においては、産業医による職場安全巡視や安全衛生に関する講習等を行い従業員に周知するとともに、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

雇用の創出

障がい者が活躍できる職場づくり

BXグループでは、全ての人がその能力を發揮し、自らの個性を活かして活躍できる職場づくりの一環として、積極的な障がい者雇用を推進しています。2015年3月時点での障がい者雇用率は2.0%であり、民間企業法定雇用率を達成しています。今後も継続的な雇用を推進していきます。

満足度の向上

豊かな発想を育成する人事制度の拡充

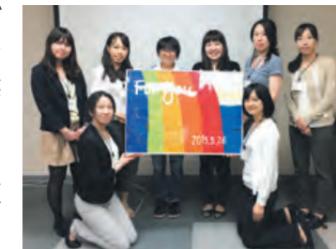
文化シャッターでは、従業員のモチベーションの向上をめざした、人事制度・教育研修の拡充に取り組んでいます。グループ内インターンシップ制度や、ジョブ公募制度、海外派遣制度に加え、新たにイノベーションや新規事業に自由な発想力を活かすための起業塾研修やBXベンチャー制度を導入しました。今後も従業員の成長を促す、制度・教育研修を充実させ活用することで、自らが考え、進んで行動できる人財を育成していきます。



ベトナム人スタッフへの日本語勉強会

女性目線の“ことづくり”をめざして

BXグループでは、女性目線“ことづくり”をめざし、女性従業員による新事業・新商品開発を目的とした「カンパニープロジェクトなでこBX」を実施しています。「第二期なでこBX」では、「女性ならではの視点と価値観を採り入れ、新たなビジネスチャンスを生み出すこと」を継承し、メンバーも新たに新事業立案活動を行いました。集大成として立案した新たな建材事業は、昨今の社会環境や意識の変化を反映しており、メンバーの熱意がこめられた提案となりました。



第二期なでこBX

理想の工場構想プロジェクト

このプロジェクトは、2015年度の製造部門方針の一つである「人材育成」の一環として、全国7工場と製造企画部から選出された次世代を担う14名の参加により行われました。メンバーは「5Sの基準作り」や「IE実習」などに取り組みながら、「文化シャッターとしての理想の工場」を構想し、製造部門方針発表会において発表しました。今後はプロジェクトのメンバーが中心となり、プロジェクトで構想した「理想の工場」を基に革新的工場の実現を図ります。



VOICE

約2カ月半にわたり、ベトナムでの研修に参加しました。異文化に戸惑うこともありましたが、懸命に働くベトナム人スタッフの姿に励まされました。「言葉が通じなくても人には思いを伝えることができる」という現地で体感したことを、日本での実務を通じて後輩へと伝えたいと思います。



文化シャッター
中四国支店
設計センター二課
係長

鈴木 一

VOICE

このプロジェクトに参加して、日常の中で感じることをテーマとして育てたいと考えましたが、理想と現実、事業化の難しさを痛感しました。活動を通して多くの視点を学ぶ機会があり会社の活力となる新しい何かが生み出し、実現されるのが楽しみです。



BXテンパル
首都圏営業部
営業二課

矢野 三知代

VOICE

プロジェクトに参加し、全国の工場から集まったメンバーと約一年にわたり共に活動したことで、意識・目的を共有できる仲間を持つことは大変大きな財産となりました。このつながりを今後の業務にも活かしていきたいと考えています。



文化シャッター
製造企画部

森本 竜一

TOPICS 人事関連データ (集計範囲:文化シャッター)

※従業員数以外は「単体」で算出

項目	2013年	2014年	2015年
連結従業員数(人)	3,374	3,518	3,805
新卒新入社員人数(人)	29	42	47
新卒新入社員3年間の定着率(%)	97.92	94.25	92.37
離職率(%)	0.86	1.38	1.35
男女の平均年齢(歳)	男(44.5)、女(40.8)、全体(44.1)	男(43.2)、女(40.0)、全体(42.9)	男(42.8)、女(39.6)、全体(42.5)
平均勤続年数(年)	男(18.2)、女(16.4)、全体(18.1)	男(17.6)、女(16.3)、全体(17.5)	男(16.8)、女(15.3)、全体(16.7)
育児休業取得者(人)	15	12	18
短時間勤務利用者(人)	7	5	10
障がい者雇用率(%)	2.20	2.14	2.00
定年後再雇用実績(人)	30	28	34
女性管理職(人)	0	0	0

コーポレート・ガバナンス

企業経営の透明性を高め、迅速で適切な経営判断を行うために、コーポレート・ガバナンスの強化を図っています。

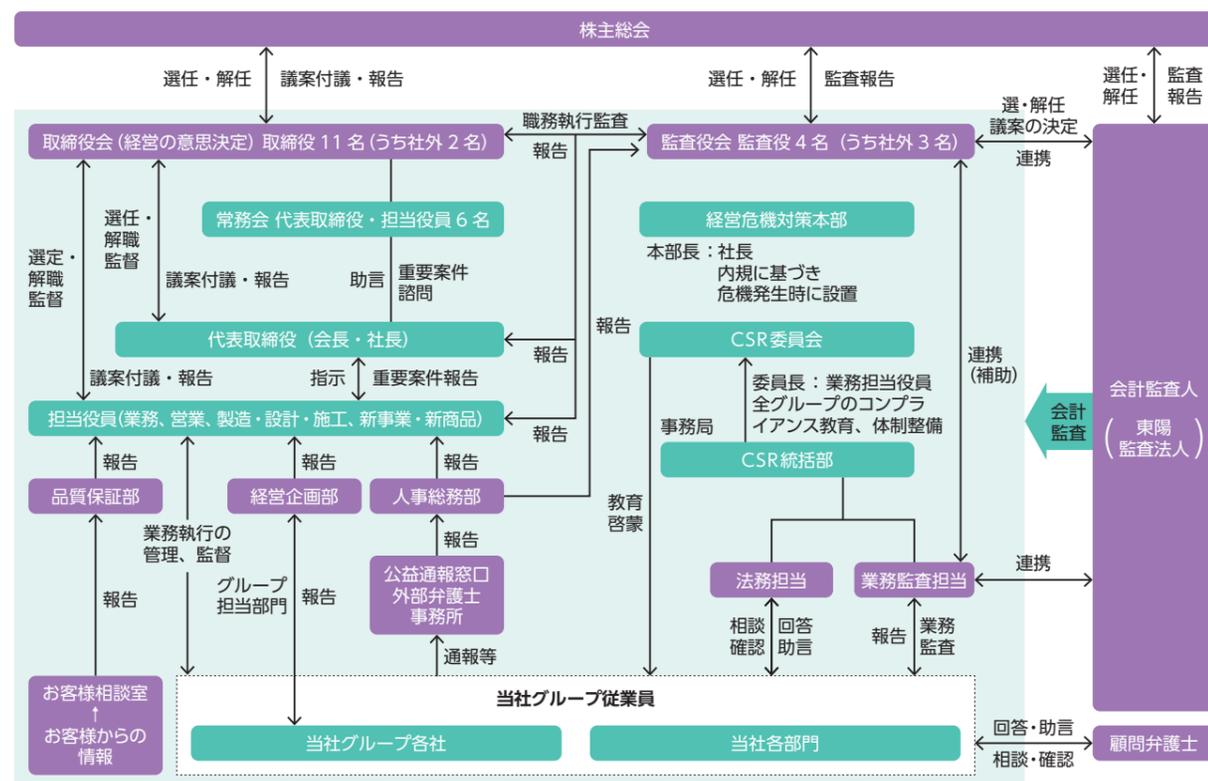
コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

BXグループは、株主や投資家のみなさまをはじめとして、お客様、取引先、地域社会のみならず、ステークホルダーのご期待にお応えする事業活動を実現するために、継続的な経営の透明性向上の観点から、経営のチェック機能を充実させ、かつ公平性の維持を図るためのコーポレート・ガバナンス体制の整備、強化を推進しています。2015年6月よりコーポレートガバナンス・コードが適用されたことに伴い、当社グループは同コードに盛り込まれた原則を適切に実践することで、持続的な成長による企業価値のさらなる向上を図ってまいります。また、取締役会は会社法等の関係法令に基づき、内部統制システム構築の基本方針を制定し、継続的に内部統制体制の整備、強化を図っています。

監査役監査・内部監査の実施

当社の監査役会は、社外監査役3名を含む4名の監査役で構成されており、経営の透明性確保を目的として、適法性、妥当性の面から取締役の職務執行状況の監査を行っています。監査役監査では、取締役会などの重要会議への出席や重要書類の閲覧、各部門およびグループ会社への往査などを行い、職務執行の全般を業務監査しています。内部

コーポレート・ガバナンス体制図



監査としては、CSR統括部業務監査担当や事業本部業務部が、事業本部、支店、工場、営業所などを対象に計画的な内部監査を実施しています。また、監査役は代表取締役との定期的な情報交換を実施するとともに、内部監査部門および会計監査人と随時情報や意見を交換し合う三様監査の体制を整え、監査が実効的に実施される体制を確保しています。

コンプライアンス

CSRガイドライン(CSR憲章)

BXグループでは、法令の遵守はもとより、社会規範や倫理に基づいた行動を一人ひとりが実践できるよう、遵守すべきルールを定めたCSRガイドラインを策定しており、e-ラーニング等を通じて周知徹底を図っています。またコンプライアンスに関する相談・連絡窓口として、「公益通報者保護規定」に基づき、社外に窓口を設置し、相談者が安心して利用できるよう、プライバシーを保護し、相談者に対する不利益な取り扱いを禁止しています。

公益通報件数(件)

2013年	2014年	2015年
1	0	0

リスクマネジメント

製品事故・品質異常の対応

BXグループは、製品事故・品質異常に迅速かつ適切に対応するために、危機管理体制を構築しています。製品事故や重大な品質異常の情報は各拠点を通じて品質保証部に報告され、法令、安全性、事故拡大などの観点から重大化する可能性があるかと判断された場合には、各会議において審議を行います。

会議では、法令遵守やお客様に「安心」「安全」にご使用いただけるかに主眼をおき、告知や改修の必要性を含め対応を検討し、社長との協議を経て告知や改修の最終決定を行います。

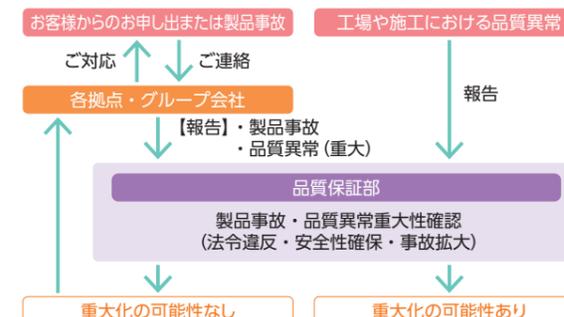
製品事故、品質異常の情報から、迅速に原因究明を実施し対策を講じることで再発防止を行います。

また、水平展開を行うことで改良・改善に努めています。

重大製品事故発生件数(件)

2013年	2014年	2015年
0	1	0

危機管理体制(製品事故・品質異常対応)



大規模災害発生時への備え

文化シャッターでは、大規模災害が発生した場合の備えとして、下記の対策を実施しています。

- 「大規模災害時緊急対応カード」を配布し、周辺避難施設や、津波の到達時間や高さ等を把握できる体制を整備しています。また、帰宅困難が予想される場合には、早期帰宅等の対応を行っています。
- 全事業所において、勤務者全員の備蓄品を完備しています。特に本社ビルにおいては、来訪者および周辺住民のための追加備蓄をしています。
- 多数の勤務者がいる事業所においては、大規模災害発

生を想定した防災訓練を定期的に行っており、冷静に安全対策を講じるための訓練を行っています。

- 交通機関等が麻痺した場合に備え、本社ビル勤務者を対象とした徒歩帰宅訓練を実施しています。今後は大阪や名古屋等の都市部拠点においても同様の訓練を実施する予定です。

製品の安定供給

BXグループは、大規模災害が発生した場合を想定し、安定した製品の供給を行うための取り組みをしています。

- 被災状況を迅速かつ詳細に把握するため、各工場に衛星通信器を設置し、本社を含めた拠点間の連絡体制を構築しています。
- 工場が被災した場合は、他工場への生産情報伝達により、製品の代替生産を可能とするバックアップ体制を構築しています。
- 原材料については、複数の供給拠点から速やかに代替品が調達できるネットワークを構築しています。
- 製品のデリバリーは、取引先や交通インフラの被災状況を迅速に把握し、最適なルートの検索や車輦等を確保する体制を構築しています。
- 主要部品や部材については、複数の調達ソースと東西デポを活用した在庫のバッファー機能により、安定的な供給体制を構築しています。
- 各サプライヤーに対しCSR調達に関するガイドラインを浸透させ、さらなる安定供給の徹底を図ります。

情報セキュリティ

BXグループでは、情報資産のセキュリティを確保するため、「電子情報管理規定」「ハードウェアおよびソフトウェア管理規定」を制定し、これに基づく管理体制のもと、積極的にセキュリティ保持活動に取り組んでいます。

2005年より全社PC端末に対する管理機能強化、PC本体およびUSBメモリ等外部媒体の暗号化による情報漏洩対策を行っており、さらにiPad等のモバイル機器についても、遠隔情報消去やパスワードの強化等の対策を行っています。また災害を想定した取り組みとして、全サーバーをデータセンターに集約し、バックアップを含め安全な環境を構築しています。なお、2015年度は情報セキュリティに関する重大な事故等の発生はありませんでした。

第三者意見

駿河台大学経済経営学部教授・博士
(経営学)

水尾 順一様

(株)資生堂を経て1999年駿河台大学助教授、2000年教授、現在に至る。日本経営倫理学会副会長、(株)アデランス社外取締役、(株)西武ホールディングス企業倫理委員会社外委員、経営倫理実践研究センター首席研究員、2010年ロンドン大学客員研究員他。著書「サステイナブル・カンパニー：「ずーっと」栄える会社の事業構想」(株)宣伝会議など多数



Check:修正— Action改善) のマネジメント・サイクルを「見える化」することにより、「イノベーションをすすめ経営改善を図る」ことがあります。当報告書では、社是・経営理念をもとにCSR憲章の4つのテーマ別に15年度の目標(計画)と実績が示され、16年度に向けた総括と今後の取り組みを明確にすることで全社共有を行い、各部門の取り組みにも反映されています。これは、経営品質の向上に向けた活動そのものであり、イノベーションの進化に結びつく報告書となっています。

今後の改善に期待する点

「お客様満足」の視点を一層鮮明に打ち出すことを期待します。

同グループにはCSR憲章・CSR行動指針・行動規範(以後、CSR憲章等)が体系化されており、従業員が共通の目標に向かって活動する羅針盤ともなっています。これらに基づく活動が、お客様や従業員、取引先、さらには地域社会の人々といった多様なステークホルダー(利害関係者)の喜びや満足を充足し、その結果として「企業の成長」が促進されるものです。その意味から、CSR憲章等の第一の項目にあげられている「成長と共に」は、「お客様と共に」と表現することで顧客満足の姿勢を鮮明に打ち出し、ステークホルダーからの理解も深まるものと考えます。その結果、CSR憲章等の他のテーマと一体になり、「ステークホルダー」重視のめざすべき方向がより明確になります。

社是・経営理念、さらにはCSR憲章等の実践により、潮崎代表取締役社長がトップメッセージで述べる「従業員の一体感」を醸成することで、ますますの「成長」に結びつくことを心から祈念します。

BXグループの「CSR報告書2016」について、企業でCSRの実務を推進し、大学でその理論構築をして「CSRの理論と実践の融合」を社会に促進してきた立場から、以下に同社の第三者意見を申し述べます。

高く評価できる点

特集記事をとおり、「防災ソリューション」への取り組みを知ることができます。

近年、震災や豪雨など自然災害が頻発し、重要な社会的課題となっています。同グループは、自治体、企業、さらには地域社会などを対象にした止水事業を中心として防災ソリューションの開発・拡充に取り組んでおり、その様子が特集記事をとおり開示されています。「社会と共に」、「地球と共に」行動する快適環境のソリューショングループとして信頼を高めています。

経営品質の向上に向け、CSR経営が「見える化」されています。

CSR報告書の狙いの一つに、PDCA(Plan:計画—Do:実行—

第三者意見をいただい



文化シャッター
CSR統括部
執行役員部長
松山 成強

当社グループのCSR報告書につきまして、水尾先生より貴重なご意見を賜り、深く感謝申し上げます。

当社グループは創業当初より、そのときどきの社会問題に向き合い、時代のニーズに沿った新しい価値の創造に挑戦し続けています。近年は気候変動による環境の変化が著しいですが、変化に適応するためのソリューションを提供するエコ・防災事業を通じて、CSVの実現をめざしています。

この度、そのような当社グループの取り組みについてご評価いただき、大きな励みになりました。今後も「快適環境のソリューショングループ」として、みなさまからご信頼いただけるよ

う、努力してまいります。

社是・経営理念に基づいたCSR憲章は、従業員が活動する指針となる、まさに“羅針盤”です。ご指摘いただきましたとおり、CSR憲章「成長と共に」は、お客様満足の追求がグループの成長・発展につながることをめざしています。その姿勢をステークホルダーのみなさまにより深くご理解いただくために、表現を改めるとのご提案につきましては、真摯に受け止め、今後の検討課題とさせていただきます。

本報告書は、みなさまと対話するためのツールと位置づけております。今後も、水尾先生はじめ、みなさまには忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただきたいと思います。

会社概要

コーポレートデータ

社名 文化シャッター株式会社

本社 〒113-8535 東京都文京区西片一丁目17番3号

TEL: 03-5844-7200 (代表) FAX: 03-5844-7201

設立 1955年(昭和30年)4月18日

事業内容 各種シャッター、住宅建材、ビル用建材の製造および販売

資本金 15,051百万円(2016年3月現在)

従業員数 3,805名(連結2016年3月現在)

営業所 全国218ヶ所(連結294ヶ所)

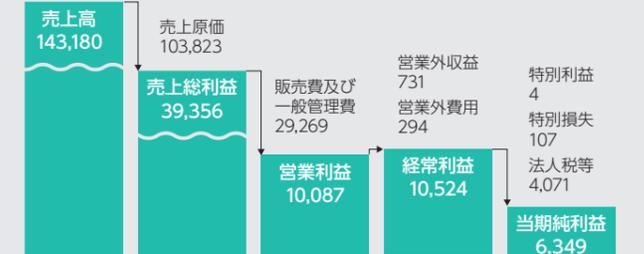
財務データ

BXグループでは、ステークホルダーのみなさまへの責任として、経営の透明性を高め健全な財務体質の強化を図るとともに、公正、適正に情報公開しています。

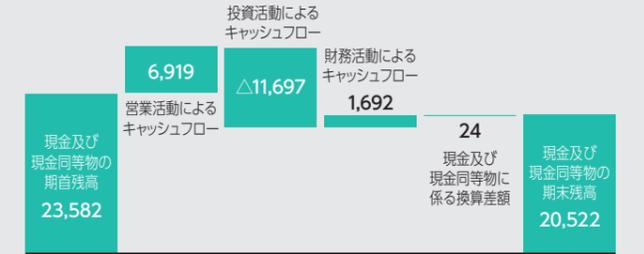
連結貸借対照表(B/S) 単位(百万円)

資産の部 合計 130,097		負債・純資産の部 合計 130,097	
現金及び預金 22,478	流動資産 81,024	流動負債 46,266	支払手形及び買掛金 29,526
受取手形及び売掛金 41,814		短期借入金 2,000	
商品及び製品 9,170		リース債務 426	
仕掛品 785		未払費用 4,578	
原材料及び貯蔵品 3,001		賞与引当金 3,159	
繰延税金資産 1,300		その他 6,574	
その他 2,578		固定負債 23,110	長期借入金 3,000
貸倒引当金 △104	固定資産 49,073	退職給付に係る負債 18,238	
		その他 1,872	
有形固定資産 23,144	純資産 60,721	株主資本 58,144	
無形固定資産 4,191		その他の包括利益累計額 2,576	
投資その他の資産 21,737			

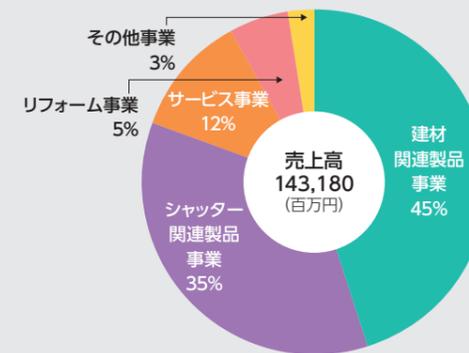
損益計算書(P/L) 単位(百万円)



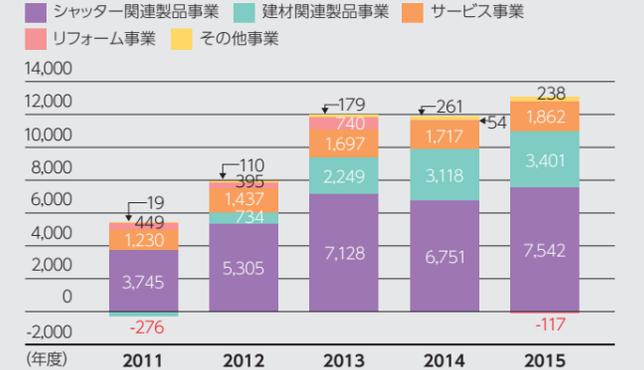
キャッシュフロー(C/F) 単位(百万円)



事業別売上高の構成比

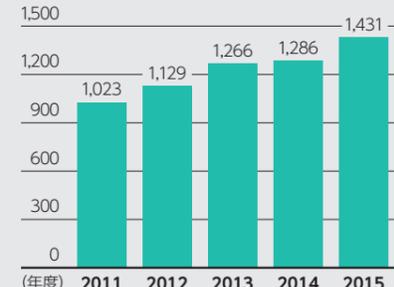


事業別営業利益の推移 単位(百万円)



主要指標経年変化 単位(億円)

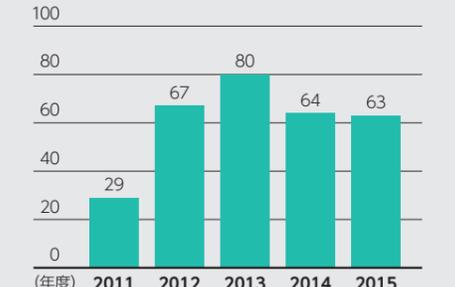
売上高の推移(連結)



営業利益の推移(連結)



当期純利益の推移(連結)





文化シャッター株式会社

〒113-8535 東京都文京区西片一丁目17番3号
www.bunka-s.co.jp/

お問い合わせ先
CSR 統括部

TEL.03-5844-7330

FAX.03-5844-7331

